

ネットワーク カメラ

ユーザーマニュアル

本機を操作する前に、この説明書をよくお読みになり、今後の参考のために保管してください。

安全に関する指示

このマニュアルには、以下の記号または語句が使用されている場合があります。

記号／言葉	説明
△ 警告	回避しなければ軽傷または中程度の怪我につながる可能性のある、中程度または低程度の危険状況を示します。
△ 注意	回避しない場合、デバイスの損傷、データ損失、パフォーマンスの低下、または予期せぬ結果につながる可能性のある潜在的なリスクを示します。
📖 注意	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供する。

マニュアルについて

- このマニュアルは多くの機種に対応しています。マニュアルで使用されているすべての例、スクリーンショット、図、グラフ、イラストは参考用であり、実際の製品とは異なる場合があります。
- デバイスを正しく安全に使用するために、このユーザーマニュアルをよくお読みください。
- 法律で認められる最大限の範囲において、本マニュアルに記載されている製品（ハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア等を含む）は「現状のまま」提供されます。本ドキュメントの情報（URLおよびその他のインターネットサイト参照データを含む）は予告なく変更される場合があります。本マニュアルには、技術的に誤った箇所や印刷ミスが含まれている可能性があります。これらの情報は定期的に更新され、変更内容は予告なく最新版のマニュアルに反映されます。

製品の使用

- この製品は違法な目的で使用しないでください。
- 当社は、他者のプライバシー、個人情報、肖像権を侵害する目的で当社の製品を使用することを一切許可しません。ユーザーは、本製品を違法な目的、または本規約、条件、宣言で禁止されている目的で使用してはなりません。ユーザーは、本製品を使用する際、本製品のハードウェアをいかなる方法でも損傷、無効化、過負荷、または妨害してはならず、また、他のユーザーによる本製品の使用を妨害してはなりません。さらに、ユーザーは、ハッキング、パスワードの窃盗、またはその他の手段によって、本製品またはソフトウェアを使用しようと試みてはなりません。

電気安全

- この製品は、ユニットに『Limited Power Source』または『LPS』と表示されたりリスト入りの電源ユニットから供給されることを想定しており、出力は最低12V/2A、またはPOE 48V/350mA、あるいはAC24V（モデルにより異なる）、動作高度は2000m以下、周囲最高温度Tma=60°Cです。
- PoE機能を備えたモードに関しては、IEC 60950-1規格に基づいて調査されているITEの機能は、キャンパス環境を含む外部プラントルーティングを備えたイーサネットネットワークへの接続を必要とする可能性は低く、ITEは外部プラントへのルーティングなしでPoEネットワークにのみ接続されると考えられます。
- 取り扱いや取り付けを間違えると、火事や感電の危険があります。
- 感電のリスクを減らすために、この製品は接地する必要があります。
- △ 警告：カメラのパネルやカバーを外す前に、静電防止手袋を着けるか、静電気を放電してください。
- △ 注意：特に指定がない限り、デバイスに同時に二つの電源を供給しないでください。

故障の原因になるかもしれません！

環境

- 輸送、保管、設置中は、過度のストレス、激しい振動、または水への曝露は許可されません。
- 太陽などの非常に明るい物体にカメラを直接向けないでください。
イメージセンサーを損傷する可能性があります。
- ラジエーターや暖房器具、ストーブなどの熱源から遠ざけてください。
- 商品の直風をエアコンから当てないでね。
- 湿気やほこりの多い場所、極端に高温または低温の場所、あるいは強い電磁波や不安定な照明のある場所には機器を設置しないでください。
- カメラレンズに反射面が近すぎないように注意してください。カメラからの赤外線がレンズに反射して、画像がぼやける可能性があります。

運用と日常メンテナンス

- 内部にはユーザーが修理できる部品はありません。
もし製品が正常に動作しない場合は、最寄りのサービスセンターに連絡してください。
- メンテナンス作業を始める前に、デバイスの電源を切ってから電源ケーブルを抜いてね。
- △ 注意：すべての点検や修理作業は、資格のある人が行うべきです。
- CMOSセンサーの光学部品には触れないでください。
レンズ表面の誇りはブローを使って埃を吹き飛ばすことができます。
- デバイスの清掃には必ず乾いた柔らかい布を使用してください。ほこりがひどい場合は、布などで清掃すると、IR機能の低下やIR反射の悪化につながる可能性があります。
- ドームカバーは光学機器ですので、取り付け時や使用中はカバー表面に直接触れたり拭いたりしないでください。
ほこりは、油分を含まない柔らかいブラシまたはヘアドライヤーで優しく取り除いてください。油汚れや指紋は、油分を含まない綿布または洗剤を染み込ませた紙で拭き取ってください。
レンズの中心から外側に向かって拭いてください。汚れが落ちない場合は、布を交換して数回拭いてください。

プライバシー保護

- 公共の場所にカメラを設置する場合は、合理的かつ効果的な方法で警告通知を行い、監視範囲を明確にする必要があります。
- デバイスのユーザーやデータ管理者として、顔や車のナンバープレートなど、他人の個人情報を収集することがあるかもしれません。そのため、他人の正当な権利や利益を守るために、データ漏えいや不適切な利用を避けるための合理的で必要な対策を講じる必要があります。例えば、アクセス制御を設定したり、監視エリアの存在を知らせる分かりやすい表示を出したり、必要な連絡先情報を提供したりすることなどが含まれます。

免責事項

- インターネット接続機能付き製品に関しては、製品の使用はすべてお客様の責任となります。当社は、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス検査、その他のインターネットのセキュリティリスクによって生じた異常な操作、プライバシーの漏洩、その他の損害については責任を負いません。ただし、必要に応じて当社は適時の技術サポートを提供します。
- 監視に関する法律は国によって異なります。監視目的で本製品を使用する前に、お住まいの地域のすべての法律をご確認ください。違法な操作によって生じた結果について、当社は一切責任を負いません。

サイバーセキュリティに関する推奨事項

- 強力なパスワードを使用してください。パスワードは8文字以上、または文字、数字、大文字と小文字を組み合わせたものにしてください。
- デバイスのパスワードを定期的に変更して、許可されたユーザーのみがシステムにアクセスできるようにしてください（推奨間隔は90日です）。
- 外部からのアクセスリスクを軽減するために、サービスのデフォルトポート（HTTP-80、HTTPS-443など）を変更することをお勧めします。
- ルーターのファイアウォールを設定することをお勧めします。ただし、HTTPポート、HTTPSポート、データポートなど、重要なポートの一部は閉じることができないことに注意してください。
- 本デバイスを公共ネットワークに接続することは推奨されません。公共ネットワークに接続する必要がある場合は、外部ハードウェアファイアウォールと対応するファイアウォールポリシーを設定してください。
- SNMPのv1およびv2機能を使用することは推奨されません。
- WEBクライアントアクセスのセキュリティを強化するため、HTTPSを有効にするためのTLS証明書を作成してください。
- ブラックリストとホワイトリストを使用してIPアドレスをフィルタリングします。これにより、指定されたIPアドレス以外のすべてのユーザーがシステムにアクセスできなくなります。

- 複数のユーザーを追加する場合は、ゲストアカウントの機能を制限してください。
- UPnPを有効にすると、ルーターまたはモデムでポート転送が自動的に試みられます。これはユーザーにとって非常に便利ですが、システムが自動的にポートを転送すると、データ漏洩のリスクが高まります。実際のアプリケーションでこの機能を使用しない場合は、UPnPを無効にすることをお勧めします。
- ログを確認してください。デバイスが不正アクセスされたかどうかを知りたい場合は、ログを確認できます。システムログには、システムへのログインに使用されたIPアドレスとアクセスされた内容が表示されます。

規制情報

FCC情報

コンプライアンス責任者によって明示的に承認されていない変更または改造は、機器を操作するユーザーの権限を無効にする可能性があることにご注意ください。

1. FCC準拠

この機器はテスト済みであり、FCC規則パート15に準拠したクラスBデジタル機器の制限に適合していることが確認されています。これらの制限は、住宅環境における有害な干渉から合理的な保護を提供するように設計されています。この機器は無線周波数エネルギーを生成、使用、放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置環境で干渉が発生しないことを保証するものではありません。この機器がラジオまたはテレビの受信に有害干渉を引き起こす場合（機器の電源をオン/オフすることで確認できます）、ユーザーは以下のいずれかまたは複数の方法で干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変更する。
- 機器と受信機間の距離を広げてください。
- 機器を、レシーバーが接続されている回路とは別の回路のコンセントに接続してください。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談してください。

2. FCCの条件：

- この機器はFCC規則のパート15に準拠しています。
この製品の操作は、以下の2つの条件に従います：
- このデバイスは有害なインターフェースを引き起こしてはなりません。
- このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信するあらゆる干渉を受け入れなければなりません。

RoHS

この製品は、特定有害物質の電気・電子機器での使用制限に関するEU指令2011/65/EU（RoHS指令）およびその改正指令EU2015/863に従って設計・製造されています。



2012/19/EU（WEEE指令）：廃電気電子機器に関する指令（WEEE指令）。WEEEの環境管理を改善するためには、使用済み電子機器の回収、処理、リサイクルの改善が不可欠です。したがって、このシンボルが付いた製品は、責任ある方法で廃棄しなければなりません。

指令94/62/EC：この指令は、包装と包装廃棄物の管理や環境保護を目的としています。このマニュアルで言う製品の包装や包装ごみは、適切にリサイクルして環境を守るために、指定された回収場所に出さなければなりません。

REACH（EC1907/2006）：REACHは、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則であり、化学物質の本質的な特性をより迅速かつ的確に特定することで、人間の健康と環境を高度に保護することを目的としています。本マニュアルに記載されている製品は、REACHの規則および規制に準拠しています。REACHの詳細については、欧州委員会成長総局（DG GROWTH）または欧州化学物質庁（ECHA）のウェブサイトをご覧ください。

目次

1	はじめに	1
2	ネットワーク接続	2
2.1	LAN	2
2.1.1	IPツールによるアクセス	2
2.1.2	IE経由での直接アクセス	4
2.2	WAN	6
3	ライブビュー	9
4	ネットワークカメラの設定	12
4.1	システム構成	12
4.1.1	基本情報	12
4.1.2	日時	12
4.1.3	ローカル設定	13
4.1.4	保管	14
4.2	画像構成	16
4.2.1	ディスプレイ構成	16
4.2.2	ビデオ/オーディオ設定	19
4.2.3	OSD構成	20
4.2.4	ビデオマスク	21
4.2.5	ROI構成	22
4.2.6	レンズコントロール	23
4.3	PTZ設定	23
4.4	アラーム設定	24
4.4.1	動体検知	24
4.4.2	その他の警報	25
4.4.3	アラーム入力	27
4.4.4	アラーム出力	28
4.4.5	アラームサーバー	29
4.5	イベント設定	30
4.5.1	放置/紛失した物品	30
4.5.2	ビデオ例外	32
4.5.3	線路横断	33
4.5.4	領域侵入	35
4.5.5	地域入口	37
4.5.6	領域からの退出	37
4.5.7	ラインごとのターゲットカウント	37
4.5.8	エリア別ターゲットカウント	40
4.5.9	群衆密度の検出	42
4.5.10	顔検出	44
4.5.11	ヒートマップ	46
4.6	ネットワーク構成	47

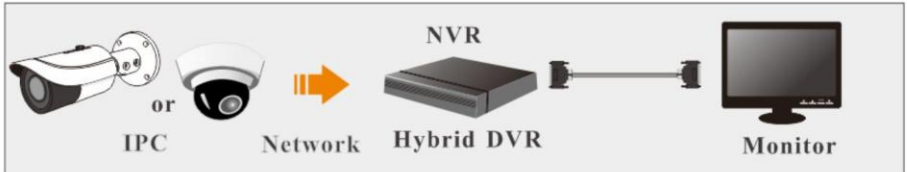
4.6.1	TCP/IP.....	47
4.6.2	ポート.....	49
4.6.3	サーバー構成	49
4.6.4	Onvif.....	50
4.6.5	DDNS.....	50
4.6.6	SNMP.....	51
4.6.7	802.1x.....	52
4.6.8	RTSP.....	53
4.6.9	RTMP.....	54
4.6.10	UPNP.....	54
4.6.11	Email.....	55
4.6.12	FTP.....	56
4.6.13	HTTPPOST.....	57
4.6.14	HTTPS.....	58
4.6.15	Qos	59
4.7	セキュリティ設定.....	60
4.7.1	ユーザー設定	60
4.7.2	オンラインユーザー.....	62
4.7.3	ブロックリストと許可リスト	62
4.7.4	セキュリティ管理	62
4.8	保守構成.....	63
4.8.1	バックアップと復元	63
4.8.2	再起動.....	64
4.8.3	アップグレード.....	64
4.8.4	操作ログ.....	65
5	検索	66
5.1	画像検索	66
5.2	動画検索.....	68
5.2.1	ローカルビデオ検索.....	68
5.2.2	SDカードのビデオ検索	69
付録		72
付録1	トラブルシューティング	72

1. はじめに

主な特徴

- ICR自動切り替え、昼夜切替え
- 3D DNR、WDR
- BLC、デフォグ、アンチフリッカー、スマートIR、廊下のパターン
- ROIコーディング
- 顔検出、ラインクロス/領域侵入/領域進入/領域退出（人間/車両分類）、ビデオ例外検出、ヒートマップ、ターゲットカウントなど
- iOSおよびAndroid OS搭載スマートフォンによるモバイル監視をサポート

監視アプリケーション



2. ネットワーク接続

システム要件

本製品を正しく動作させるには、お使いのコンピュータが以下の要件を満たしている必要があります。

オペレーションシステム： Windows 7 Home Basic 以上

CPU： 2.0GHz以上

RAM： 1GB以上

ディスプレイ： 1920×1080ピクセル以上の解像度（推奨）

ウェブブラウザ： IE（プラグインが必要）／Firefox／Edge／Safari／Google Chrome

これらのウェブブラウザは最新バージョンを使用すること勧めします。

ブラウザにプラグインをインストールした場合とインストールしない場合では、カメラのメニュー表示や操作方法が若干異なる場合があります。適切なプラグインをインストールすると、カメラのより多くの機能が表示されます。

IPカメラをLANまたはWAN経由で接続します。ここではIEブラウザを例として説明します。詳細は以下のとおりです：

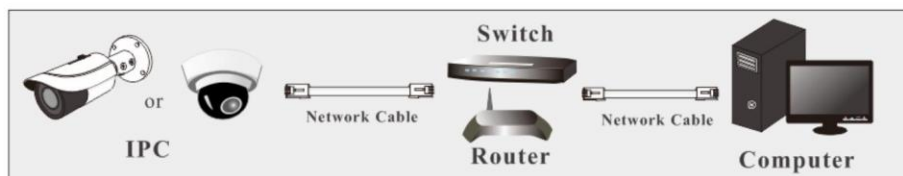
2.1 LAN

LAN内では、IPカメラにアクセスする方法は2つあります。

1. IPツール経由でアクセスする。2. IEブラウザから直接アクセスする。

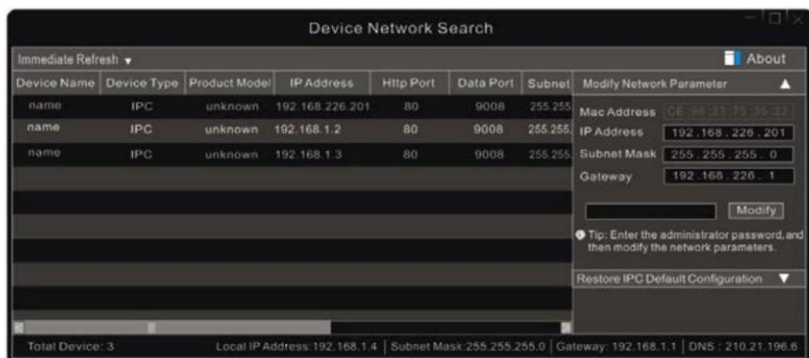
2.1.1 IPツールによるアクセス

ネットワーク接続：



① PCとIPカメラがLANに接続されていること、およびPCにCDからIPツールがインストールされていることを確認してください。

② デスクトップ上のIP-Toolアイコンをダブルクリックして、以下の図のようにソフトウェアを実行します。



カメラのデフォルトのIPアドレスは**192.168.226.201**です。

- ③ IPアドレスをダブルクリックすると、システムがIEブラウザを起動してIP-CAMに接続します。プライバシーポリシーを読んだ後、「既に読んだ」にチェックを入れてクリックします。その後、デバイスを有効化してください。

Device Activation

User Name

admin

☒ Activate Onvif User

New Password

8~16 characters; Numbers, special characters, upper case letters and lower case letters must be included.

Confirm Password

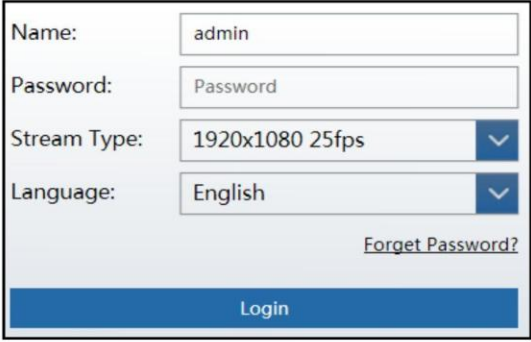
OK

ヒントに従って、管理者のパスワードを各自で設定してください。

「ONVIFユーザーの有効化」が有効になっている場合、ONVIFユーザーを同時に有効化できます。サードパーティプラットフォームでONVIFプロトコルを使用してカメラを接続する際は、上記で設定したデフォルトのユーザー名とパスワードを使用して接続できます。

その後、指示に従ってActiveXコントロールをダウンロード、インストール、実行してください。

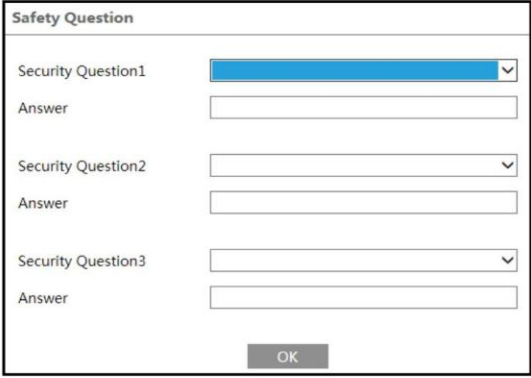
IEブラウザ経由でカメラを再接続すると、ログイン画面が表示されます。



The login form contains the following fields and elements:

- Name:** A text input field containing the value "admin".
- Password:** A text input field containing the placeholder text "Password".
- Stream Type:** A dropdown menu currently showing "1920x1080 25fps".
- Language:** A dropdown menu currently showing "English".
- Forget Password?:** A text link located below the language dropdown.
- Login:** A blue button with white text located at the bottom of the form.

ユーザー名（admin）とパスワードを入力してください。その後、必要に応じて配信タイプと言語を選択してください。
ストリームの種類：プラグイン不要のライブビューは、1080P以下の解像度のみをサポートしています。
セキュリティ質問は、「ログイン」ボタンをクリックした後に設定されます。パスワードをリセットすることは非常に重要です。
これらの回答を覚えておいてください。



The Safety Question form contains the following fields and elements:

- Safety Question:** A header label for the section.
- Security Question1:** A dropdown menu with a blue highlight.
- Answer:** A text input field corresponding to Security Question1.
- Security Question2:** A dropdown menu.
- Answer:** A text input field corresponding to Security Question2.
- Security Question3:** A dropdown menu.
- Answer:** A text input field corresponding to Security Question3.
- OK:** A button located at the bottom right of the form.

管理者パスワードを忘れた場合は、「**パスワードを忘れた場合**」をクリックしてパスワードをリセットできます。
ログインページで、セキュリティの質問と回答を使用してパスワードをリセットできます。

それから、設定したセキュリティの質問と答えでパスワードをリセットできます。

アカウントのセキュリティ質問は、アクティベーション中に設定することもできますし、Config→Security→Userに行って、安全質問をクリックし、質問を選んで回答を入力することもできます。

2.1.2 IE経由での直接アクセス

デフォルトのネットワーク設定は以下のとおりです。IPアドレス：192.168.226.201

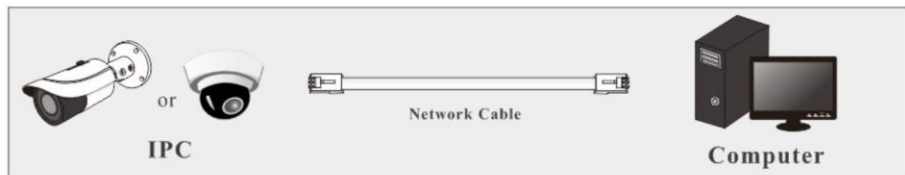
サブネットマスク：255.255.255.0

ゲートウェイ：192.168.226.1

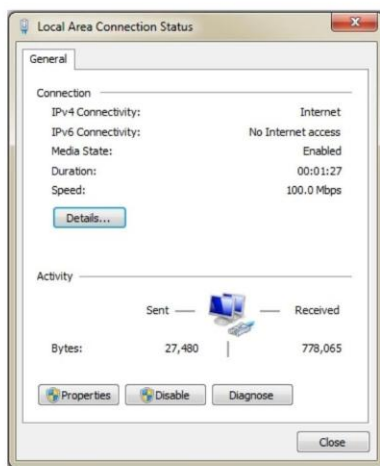
HTTP：80

データポート：9008

カメラに初めてログインする際は、上記のデフォルト設定を使用してください。カメラはネットワークケーブルでコンピュータに直接接続してください。



- ① PCのIPアドレスを手動で設定し、ネットワークセグメントはIPカメラのデフォルト設定と同じにします。
ネットワークと共有センターを開きます。「ローカルエリア接続」をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



「プロパティ」を選択し、実際の状況に応じてインターネットプロトコルを選択します（例：IPv4）。
次に「プロパティ」ボタンをクリックして、PCのネットワークを設定します。



- ② IEブラウザを開き、IP-CAMのデフォルトアドレスを入力して確認します。
- ③ 指示に従ってActiveXコントロールをダウンロードしてインストールしてください。
- ④ ログインウィンドウにデフォルトのユーザー名とパスワードを入力し、Enterキーを押して表示します。

2.2 WAN

➤ ルーターまたは仮想サーバー経由でアクセス



- ① カメラがローカルネットワークに接続されていることを確認し、LAN 経由でカメラにログインして、[設定]→[ネットワーク]→[ポート]メニューに移動してポート番号を設定します。

HTTP Port	80
HTTPS Port	443
Data Port	9008
RTSP Port	554

ポート設定

- ② IPアドレスを変更するには、[設定]→[ネットワーク]→[TCP/IP]メニューに移動します。

IPv4	IPv6	PPPoE Config	IP Change Notification Config
☐ Obtain an IP address automatically			
☒ Use the following IP address			
IP Address	192.168.226.201 Test		
Subnet Mask	255.255.255.0		
Gateway	192.168.226.1		
Preferred DNS Server	210.21.196.6		
Alternate DNS Server	8.8.8.8		

IP設定

- ③ IEブラウザでルーターの管理画面にアクセスし、「仮想サーバー」でカメラのIPアドレスとポートを転送します。

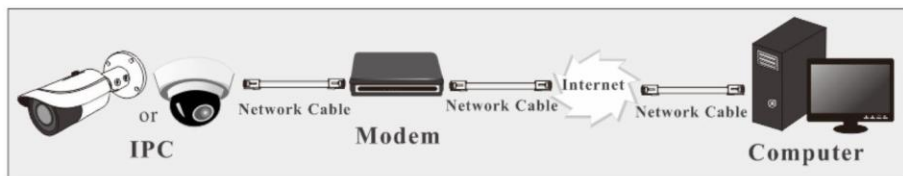
Port Range					
Application	Start	End	Protocol	IP Address	Enable
1	9007	to 9008	Both	192.168.1.201	☒
2	80	to 81	Both	192.168.1.201	☒
3	10000	to 10001	Both	192.168.1.166	☐
4	21000	to 21001	Both	192.168.1.166	☐

ルーターの設定

- ④ IEブラウザを開き、WAN IPアドレスとHTTPポートを入力してアクセスします。（例えば、HTTPポートが81に変更された場合は、Webブラウザのアドレスバーに「192.198.1.201:81」と入力してアクセスしてください。）

➤ PPPoEダイヤルアップ経由でアクセス

ネットワーク接続



PPPoE自動ダイヤルアップ経由でカメラにアクセスします。設定手順は以下のとおりです。

- ① [設定]→[ネットワーク]→[ポート]メニューに移動してポート番号を設定します。
- ② [設定] →[ネットワーク]→[TCP/IP]→[PPPoE設定]メニューに移動します。PPPoEを有効にしてから、インターネットサービスプロバイダから提供されたユーザー名とパスワードを入力します。

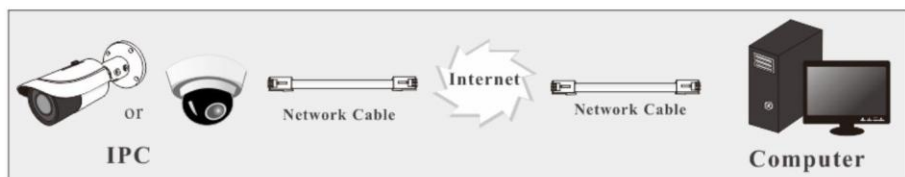
IPv4	IPv6	PPPoE Config	IP Change Notification Config
☒ Enable			
User Name		xxxxxxx	
Password		●●●●●●	
Save			

- ③ [設定] →[ネットワーク]→[DDNS]メニューに移動します。DDNSを設定する前に、まずドメイン名を申請してください。詳細については、DDNS設定を参照してください。

- ④ IEブラウザを開き、ドメイン名とHTTPポートを入力してアクセスします。

➤ 静的IPアドレスによるアクセス

ネットワーク接続

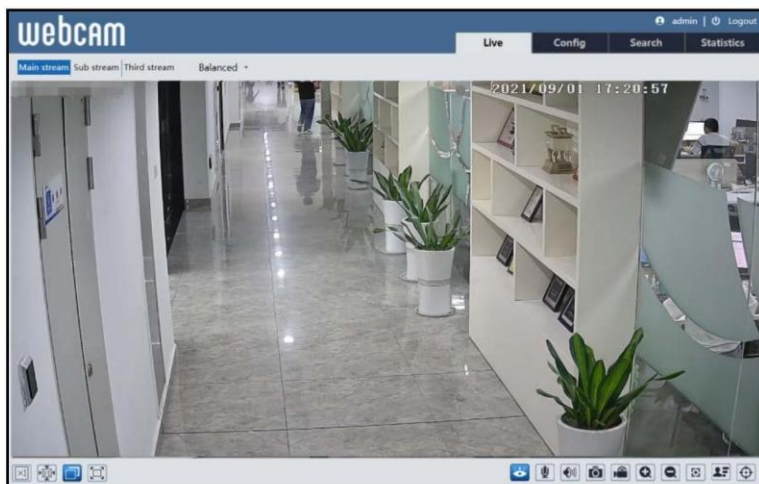


設定手順は以下のとおりです。

- ① [設定]→[ネットワーク]→[ポート]メニューに移動してポート番号を設定します。
- ② [設定]→[ネットワーク]→[TCP/IP]メニューに移動してIPアドレスを設定します。
「次のIPアドレスを使用する」にチェックを入れ、静的IPアドレスとその他のパラメータを入力します。
- ③ IEブラウザを開き、WAN IPアドレスとHTTPポートを入力してアクセスします。

3 ライブビュー

ログイン後、以下のウィンドウが表示されます。



以下の表は、ライブビュー画面上のアイコンの説明です。

アイコン	説明	アイコン	説明
	オリジナルサイズ		センサーアラームインジケータ
	正しいスケールに合わせる		モーションアラームインジケータ
	自動（ウィンドウを埋める）		色異常表示
	全画面表示		異常な透明度指標
	ライブビューの開始/停止		シーン変更インジケータ
	双方向音声の開始/停止（音声入力コネクタ搭載モデルのみ対応）		線路交差表示器
	音声の有効化/無効化		侵入インジケータ
	スナップショット		地域進入指標
	ローカル録画の開始/停止		地域退出インジケータ
	ズームイン		顔検出インジケータ
	ズームアウト		目標カウント（行別）表示

アイコン	説明	アイコン	説明
	AZコントロール（電動ズームレンズ搭載モデルのみ対応）		対象数（地域別）指標
	顔認識		物体検出インジケータ（物体放棄／紛失）
	ルール情報の表示		ヒートマップインジケータ
	PTZ制御（一部機種のみ対応）		群衆密度検出インジケータ
	SDカード録画インジケータ		

*これらのスマートアラームインジケータは、カメラがこれらの機能をサポートし、対応するイベントが有効になっている場合にのみ点滅します。

*プラグイン不要のライブビュー：PTZ制御、双方向音声、ローカル録画はサポートされていません。
また、プレビューモードの切り替え（リアルタイム／バランス／フルイベントモード）も利用できません。
全画面表示モードでは、マウスをダブルクリックするか、キーボードのESCキーを押して終了してください。

AZコントロールボタンをクリックすると、AZコントロールパネルが表示されます。コントロールパネルの説明は以下のとおりです。

アイコン	説明	アイコン	説明
	ズーム -		ズーム+
	フォーカス -		フォーカス+
	ワンタッチフォーカス(手動調整後も画像がぼやけている場合に使用)		

一部のカメラは、RS485を介して互換性のある外部PTZ筐体に取り付けることができます。

PTZアイコンをクリックすると、PTZコントロールパネルが表示されます。

コントロールパネルの説明は以下のとおりです。

アイコン	説明	アイコン	説明
	左上方向へ移動		右上方向へ移動
	上へ進む		動きを止める
	左へ移動へ移動		右に進む
	左下方向へ移動		右下方向に移動
	下へ移動		速度調整
	ズームアウト		ズームイン

	フォーカス -		フォーカス +
	アイリス -		アイリス +
	自動スキャン		ワイパー
	ライト		ランダムスキャン
	グループスキャン		プリセット

プリセットを選んで、 をクリックして呼び出す。プリセットを選んで設定してから、
プリセットの位置を保存するために  をクリックしてください。
設定済みのプリセットを選んで、 をクリックして削除してください。

に

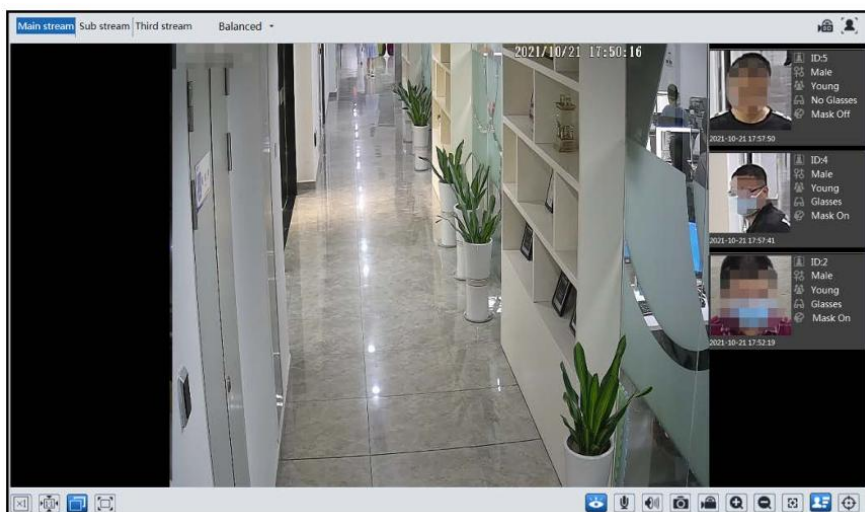
顔認識ビュー

① [設定]→[イベント]→ [顔検出]画面に移動します。[有効にする]にチェックを入れます。

②ライブビュー画面に戻ります。 をクリックして次のインターフェースに移動します。

顔が検出された場合、顔写真が右側に表示されます。

撮影された顔の特徴も表示することができ、性別、マスク着用の有無、眼鏡着用の有無、年齢層などが含まれます。



4. ネットワークカメラの設定

ウェブカメラクライアントで、「設定」を選択して設定画面に移動します。

注：該当する場合は、「保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。

4.1 システム構成

4.1.1 基本情報

「基本情報」画面には、デバイスのシステム情報が一覧で表示されます。

Device Name	IPC
Product Model	
Brand	Customer
Software Version	5.1.1.0(28666)
Software Build Date	2022-03-07
Onvif Version	21.06
OCX Version	2.2.2.7
MAC	00:18:ae:00:90:1f
About this machine	View
Privacy Statement	View

4.1.2 日時

「設定」→「システム」→「日付と時刻」に進んでください。以下の画面を参照してください。

Zone	Date and Time				
Zone	GMT (Dublin, Lisbon, London, Reykjavik) ▼				
☐ DST					
☒ Auto DST					
☐ Manual DST					
Start Time	January ▼	First ▼	Sunday ▼	00 ▼	Hour
End Time	February ▼	First ▼	Monday ▼	00 ▼	Hour
Time Offset	120 Minutes ▼				
Save					

必要に応じてタイムゾーンと夏時間を選択してください。

注意：カメラとコンピューターのタイムゾーンは同じである必要があります。カメラのタイムゾーンをコンピューターのタイムゾーンに合わせて変更することをお勧めします。コンピューターのタイムゾーンを変更した場合は、現在使用しているWebクライアントを閉じる必要があります。それから再度開き、ログインしてください。「日付と時刻」タブをクリックして、時刻モードと時刻形式を設定します。

4.1.3 ローカル設定

ローカルPC上の撮影画像と録画動画の保存先を設定するには、「設定」→「システム」→「ローカル設定」に進んでください。録画ファイルにおけるビットレート表示の有効/無効を切り替えるオプションもあります。

さらに、「ローカルスマートスナップショットストレージ」をここで有効または無効にすることができます。有効にすると、スマートイベント（ラインクロス検出、領域侵入など）によってトリガーされたキャプチャ画像がローカルPCに保存されます。

レンダリングモード：高効率モード、互換モード、低効率モードから選択できます。

お使いのコンピューターの性能がIEクライアントに対応していない場合、またはコンピューターにグラフィックカードが搭載されていない場合は、低効率モードの使用をお勧めします。

注意：プラグインを使用せずにウェブブラウザでカメラにアクセスする場合、上記のインターフェースでは「ビットレートの表示」のみ設定可能です。

4.1.4 ストレージ

Config→System→ Storageに移動して、以下に示すインターフェースに移動します。

Management	Record	Snapshot
Total picture capacity	379 MB	
Picture remaining space	379 MB	
Total recording capacity	3329 MB	
Record remaining space	2816 MB	
State	Normal	
Snapshot Quota	10 %	
Video Quota	90 %	
Changes in the quota ratio need to be formatted before they become effective.		
Eject Format		

● SDカードの管理

SDカードをフォーマットするには「フォーマット」ボタンをクリックしてね。このボタンをクリックすると、すべてのデータが消去されます。データの書き込みを止めるには「取り出し」ボタンをクリックしてください。そうすればSDカードを安全に取り出せます。

スナップショット容量：SDカードに保存する写真の容量の割合を設定します。

ビデオの割り当て：SDカード上の録画ファイルの容量割合を設定する

● スケジュール録画設定

1. [設定]→[システム]→[ストレージ]→[録画] に移動して、下図のようなインターフェースを開きます。

Management	Record	Snapshot
Record Parameters		
Record Stream	Main	▼
Pre Record Time	No Pre Record	(H264,H265,MJPEG)
Cycle Write	Yes	▼
Timing		
☒ Enable Schedule Record		

2. 録画ストリーム、事前録画時間、サイクル書き込みを設定します。

事前録画時間：実際の録画開始時刻より前に、録音を開始する時間を設定します。

3.スケジュール録画を設定します。「スケジュール録画を有効にする」にチェックを入れ、スケジュールを設定します。

Week Schedule

○ Erase ● Add

Sun. 00:00-24:00 Manual Input

Mon. 00:00-24:00 Manual Input

Tue. 00:00-24:00 Manual Input

Wed. 00:00-24:00 Manual Input

Thu. 00:00-24:00 Manual Input

Fri. 00:00-24:00 Manual Input

Sat. 00:00-24:00 Manual Input

Holiday Schedule

Date 09-01

+

-

00:00-24:00 Manual Input

Save

週間スケジュール

月曜日から日曜日までの1週間分のアラーム時刻を設定してください。各日は1時間単位で区切られています。緑色は設定済み、空白は未設定を表します。

「追加」：特別な日のスケジュールを追加します。マウスをドラッグしてタイムライン上の時間を設定します。

「消去」：スケジュールを削除します。マウスをドラッグしてタイムライン上の時間を消去します。

手動入力：特定の日付をクリックして、開始時刻と終了時刻を具体的に入力します。これにより、より細かい単位（分単位）で入力できます。

一日のスケジュール

祝日などの特別な日にアラームが鳴るように、アラーム時刻を設定してください。

注意： 祝日スケジュールは週次スケジュールよりも優先されます。

● スナップショット設定

設定→システム→ストレージ→スナップショットの順に選択すると、以下の図に示すようなインターフェースが表示されます。

Management	Record	Snapshot
Snapshot Parameters		
Image Format	JPEG ▼	
Resolution	1280x720 ▼	
Image Quality	Low ▼	
Event Trigger		
Snapshot Interval	1	Second
Snapshot Quantity	5	
Timing		
☐ Enable Timing Snapshot		
Snapshot Interval	5	Second

SDカードに保存する画像のフォーマット、解像度、品質、スナップショットの間隔と枚数、およびタイミングをここで設定します。

スナップショット枚数：ここで設定する数値は、スナップショットの最大枚数です。実際のスナップショット枚数は、この数値よりも少なくなる場合があります。例えば、アラームイベントの発生時刻が画像撮影時刻よりも短い場合、実際のスナップショット枚数は設定された枚数よりも少なくなります。

タイミングスナップショット：まずタイミングスナップショットを有効にしてから、スナップショットの間隔とスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール録画と同じです（「スケジュール録画」を参照）。

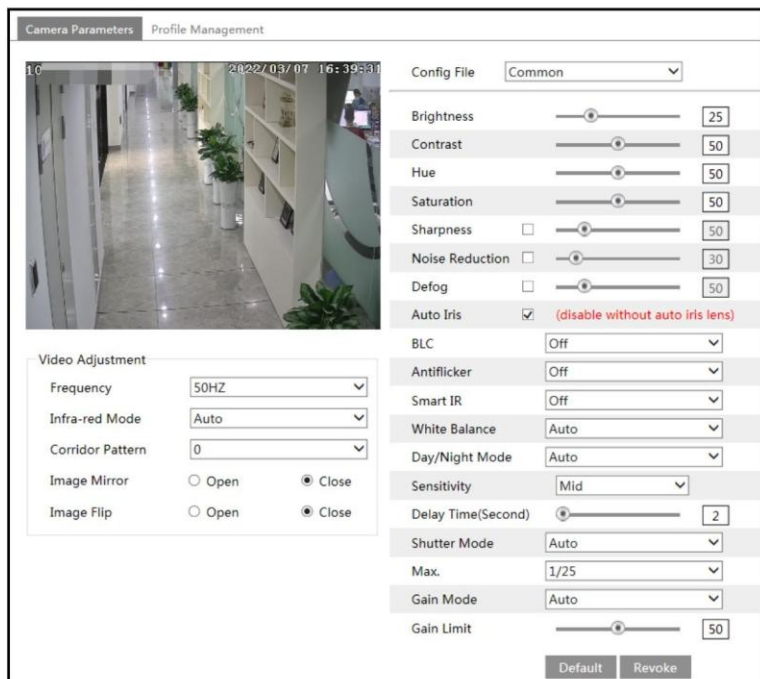
4.2 イメージ構成

4.2.1 ディスプレイ構成

下図のように「画像」→「表示」画面に移動してください。

通常モード、昼間モード、夜間モードごとに、画像の明るさ、コントラスト、色相、彩度などを個別に設定できます。

設定ファイルを切り替えることで、画像の効果を素早く確認できます。



明るさ：カメラ画像の明るさレベルを設定します。

コントラスト：最も明るい部分と最も暗い部分の色を設定します。

色相：画像の全体的な色の度合いを設定します。

彩度：色の純度を設定します。色が純粋であるほど、画像は明るくなります。

シャープネス：画像面の解像度レベルと画像エッジの鮮明度レベルを設定します。

ノイズリダクション：ノイズを低減し、画像をより鮮明にします。値を大きくするとノイズリダクション効果は向上しますが、画像解像度は低下します。

曇り止め：霧、埃、スモッグ、雨天などの環境で、この機能を有効にし、必要に応じて適切な値を設定することで、鮮明な画像を得ることができます。

オートアイリス：お使いのカメラがオートアイリスに対応している場合は、有効にしてください。

バックライト補正 (BLC)：

- オフ：バックライト補正機能を無効にします。これがデフォルトモードです。

HWDR：WDRは、視野内に非常に明るい部分と非常に暗い部分が同時に存在する場合に、明るい部分の明るさを下げ、暗い部分の明るさを上げることで、より良い画像を提供するようにカメラを調整できます。

非WDRモードからWDRモードに切り替わる間、録画は数秒間停止します。

- HLC：画像の明るい領域の明るさを抑制し、ハロー領域のサイズを小さくすることで、画像全体の明るさを下げます。
- BLC：有効にすると、シーンに応じて自動露出が作動し、画像の最も暗い部分にある被写体が鮮明に見えるようになります。

アンチフリッカー：

- オフ：ちらつき防止機能を無効にします。これは主に屋外での設置で使われます。
- 50Hz：50Hzの照明条件下でのちらつきを軽減します。
- 60Hz：60Hzの照明条件下でのちらつきを軽減します。

スマートIR：オンまたはオフを選択してください。この機能は、画像の露出オーバーを効果的に回避し、よりリアルな画像を実現します。レベルが高いほど、露出オーバー補正の度合いが高くなります。

ホワイトバランス：周囲の環境に合わせて色温度を自動的に調整します。

昼夜モード：「自動」、「昼」、「夜」、または「タイマー」を選択してください。

シャッターモード：「オート」または「マニュアル」を選択してください。マニュアルを選択した場合、デジタルシャッタースピードを調整できます。

ゲインモード：「自動」または「手動」を選択してください。「自動」を選択した場合、ゲイン値は実際の状況に応じて自動的に調整されます（設定されたゲイン制限値の範囲内）。「手動」を選択した場合は、ゲイン値を手動で設定する必要があります。値が大きいほど、画像は明るくなります。

周波数：50Hzと60Hzは選択可能です。

赤外線モード：「自動」、「オン」、「オフ」から選択してください。

廊下パターン：廊下表示モードは、長い廊下などの状況で使用できます。0、90、180、270の値が選択可能です。デフォルト値は0です。

画像ミラー：現在のビデオ画像を水平に反転する。

画像反転：現在のビデオ画像を縦に回転させる。

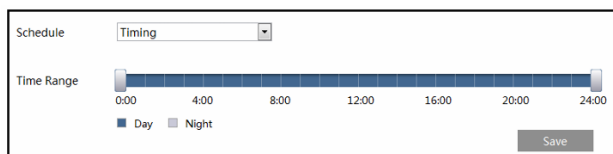
画像パラメータのスケジュール設定：

下図のように「プロファイル管理」タブをクリックしてください。



共通モード、昼間モード、夜間モードのフルタイムスケジュールと、昼間および夜間の特定タイムスケジュールを設定します。

下図に示すように、スケジュールのドロップダウンボックスで「タイミング」を選択してください。



「」アイコンをドラッグして、昼夜の時間を設定します。青色は昼間、空白は夜間を意味します。カメラの現在のパラメータモードがスケジュールに設定されている場合、画像の設定モードはスケジュールに従って昼と夜の間に自動的に切り替わります。

4.2.2 ビデオ/オーディオ設定

下図のように、「画像」→「ビデオ/オーディオ」インターフェースに移動します。このインターフェースで、実際のネットワーク状況に応じて、解像度、フレームレート、ビットレートの種類、ビデオ品質などを設定します。

Index	Stream	Resolution	Frame	Bitrate	Bitrate(Kbps)	Video	I Frame	Video	Profile
1	Main str...	1920x1080	25	CBR	3072	High	32	H265	Main Profile
2	Sub str...	1280x720	25	CBR	512	High	32	H265	High Profile
3	Third str...	704x576	25	CBR	128	High	32	H265	High Profile

Send Snapshot ☒ Sub stream Size: (1280x720)

☐ Video encode slice split

☐ Watermark (Only support H264, H265) Watermark content:

Save

3つのビデオストリームは調整可です。

解像度：画像のサイズ。

フレームレート：フレームレートが高いほど、動画は滑らかになります。

ビットレートの種類：CBRとVBRはオプションです。ビットレートは画質に関係します。CBRとは、ビデオシーンにどれだけ変化があっても、圧縮ビットレートが一定に保たれることを意味します。

VBRとは、シーンの変化に応じて圧縮ビットレートが調整されることを意味します。

例えば動きの少ないシーンでは、ビットレートは低めに保たれます。これにより、ネットワーク帯域幅の使用効率を最適化できます。

ビットレート：CBRモードに設定されている場合、調整可能です。ビットレートが高いほど、画質が向上します。

動画品質：モードをVBRに設定すると調整可能です。画質が高いほど、必要なビットレートも高くなります。

Iフレーム間隔：これは、「一連の画像」の間に許容されるフレーム数を決定します。

動画で新しいシーンが始まると、そのシーンが終了するまで、フレーム（画像）のグループ全体が1つの画像グループとして扱われます。シーン内の動きが少ない場合は、フレームレートよりも高い値を設定しても問題なく、帯域幅の使用量を削減できる可能性があります。ただし、値を高く設定しすぎると、動画内の動きが頻繁な場合、フレームスキップが発生するリスクがあります。

ビデオ圧縮：MJPEG、H264+、H264、H265、またはH265+がオプションで選択可能です。MJPEGはメインストリームでは利用できません。H.265/H.265+を選択する場合は、クライアントシステムがH.265/H.265+をデコードできることを確認してください。H265+は、ほとんどのシーンで同じ最大ビットレートでH.265よりも多くのストレージ容量を節約できます。H.264と比較すると、H.265は同じ解像度、フレームレート、画質で伝送ビットレートを削減します。

プロファイル：H.264用。ベースライン、メイン、ハイプロファイルを選択できます。

スナップショットの送信：スナップショットストリームを設定します。

ビデオエンコードスライス分割：この機能が有効になっている場合、低性能のPCでも滑らかな画像が得られます。

透かし：検索画面でローカルに録画した動画を再生する際に、ウォーターマークが表示されることがあります。

有効にするには、透かしのチェックボックスをオンにして透かしのテキストを入力してください。

「オーディオ」タブをクリックすると、下図のようなインターフェースが表示されます。

音声エンコーディング：G711AとG711Uを選択可能です。

音声タイプ：LINまたはMICはオプションです。

マイク/LIN入力音量：0～100の範囲で設定してください。必要に応じて設定してください。（一部の機種のみマイク入力に対応しています）

音声出力音量：この機能は、音声出力インターフェースを備えたモデルで利用可能です。

4.2.3 OSD構成

下図のように、[イメージ]→[OSD]インターフェースを選択してください。

タイムスタンプ、デバイス名、OSDコンテンツ、画像オーバーラップをここで設定します。対応する表示を有効にしてコンテンツを入力した後、ドラッグして位置を変更します。最後に「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

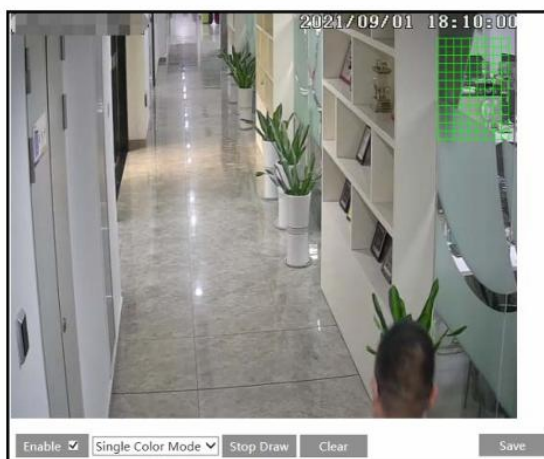


画像重ね合わせ設定：

「OSDコンテンツ1」にチェックを入れ、「画像オーバーレイ」を選択して「参照」をクリックし、重ね合わせる画像を選択します。次に「アップロード」をクリックして、重ね合わせる画像をアップロードします。画像のピクセル数は200×200を超えてはなりません。超える場合はアップロードできません。

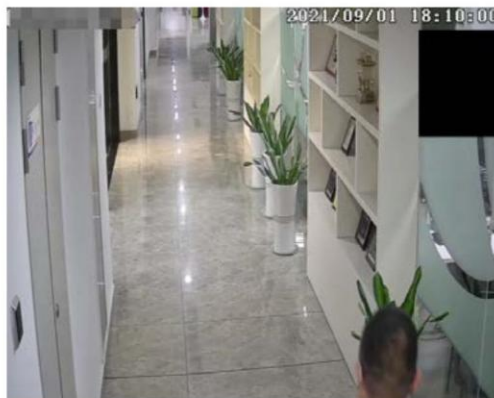
4.2.4 ビデオマスク

下図のように、「画像」→「ビデオマスク」インターフェースを選択してください。最大4つのゾーンを設定できます。



ビデオマスクを設定するには：

1. ビデオマスクを有効にする。
2. 「描画領域」ボタンをクリックし、マウスをドラッグしてビデオマスク領域を描画します。
3. 「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。
4. ライブ画面に戻り、画像でブロックアウトされているように領域が描画されていることを確認します。



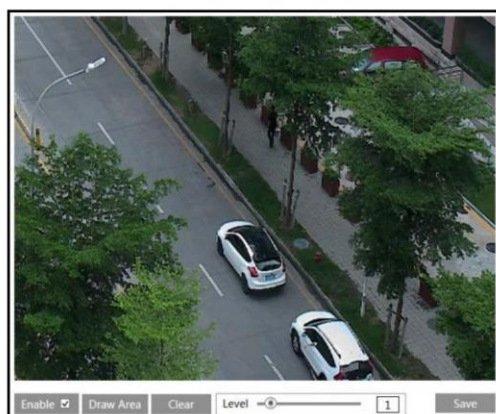
ビデオマスクをクリアするには：

現在のビデオマスク領域を削除するには、「クリア」ボタンをクリックしてください。

4.2.5 ROI構成

下図のように、[画像]→[ROI設定]インターフェースに移動します。画像内の領域を関心領域として設定できます。

この領域は画像の他の部分よりも高いビットレートで処理されるため、指定された領域の画像品質が向上します。



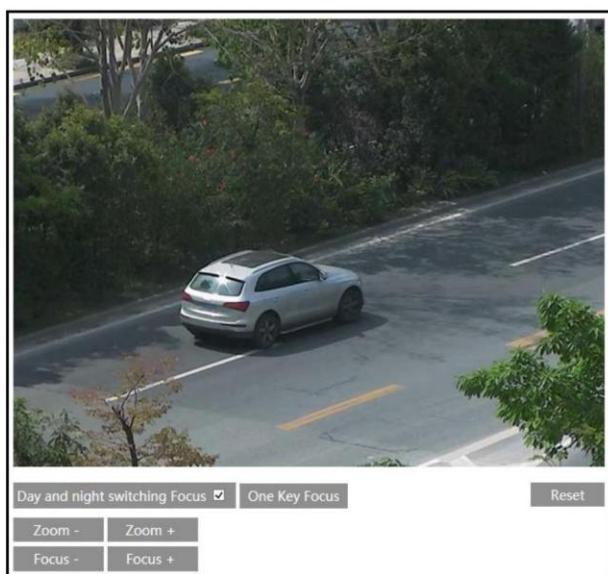
- 1.「有効にする」にチェックを入れ、「描画領域」ボタンをクリックします。
2. マウスをドラッグしてROI領域を設定します。
3. レベルを設定します。
4. 「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。



4.2.6 レンズ制御

この機能は、電動ズームレンズ搭載モデルでのみ利用可能です。

このセクションでは、ズームとフォーカスを制御できます。マニュアルで調整した後に画像がピント外れになった場合は、ワンキーオートフォーカスを使って自動的にピントを合わせることができます。設定 → 画像 → ズーム/フォーカスの画面に行って設定してね。



4.3 PTZ構成

この機能はRS485インターフェース搭載モデルでのみ利用可能です。

互換性のある外部PTZエンクロージャと組み合わせて使用できます。

下図のように「PTZ」→「プロトコルインターフェース」を選択してください。

Protocol	PELCOD ▼
Address	1
Baud-Rate	2400 ▼
Save	

4.4 アラーム設定

4.4.1 動体検知

動体検知アラームを設定するには、「アラーム」→「動体検知」を選択してください。

Alarm Config	Area and Sensitivity	Schedule
☒ Enable		
Alarm Holding Time 3 Seconds ▼		
Trigger Alarm Out		
☐ Alarm Out		
☐ Trigger SD Card Snapshot		
☐ Trigger SD Recording		
☐ Trigger Email		
☐ Trigger FTP		
Save		

1. 動体検知アラームを有効にするには、「有効にする」チェックボックスをオンにしてください。チェックを外した場合、映像に動きがあっても、カメラはNVRまたはCMSに動体検知録画をトリガーする信号を送信しません。

アラーム保持時間：これは、隣接する動きの検知間の間隔時間を指します。

例えば、アラームの保持時間を20秒に設定した場合、カメラが動きを検知するとアラームが鳴り、その後20秒間は他の動きを検知しません。この間に別の動きが検知された場合は、連続した動きとみなされます。そうでない場合は、単一の動きとみなされます。

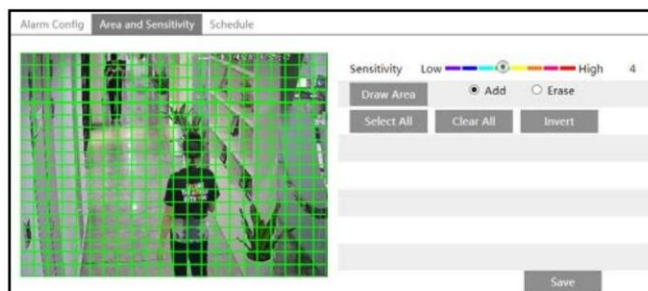
アラーム出力：このオプションを選択すると、動きを検知した際にカメラに接続された外部リレー出力が作動します。（この機能はアラーム出力コネクタを備えたモデルでのみ利用可能です。）

トリガーSDカードスナップショット：選択すると、システムは動きを検知した際に画像をキャプチャします。そして、画像をSDカードに保存します。

SDカード録画のトリガー：このオプションを選択すると、動きを検知した際にSDカードに動画が録画されます。
トリガーメール：「トリガーメール」と「画像の添付」がチェックされている場合（メールアドレスはメール設定画面で最初に設定する必要があります）、撮影された画像とトリガーされたイベントは、これらのアドレスに送信されます。

FTPトリガー：「FTPトリガー」と「画像添付」にチェックを入れると、撮影した画像がFTPサーバーのアドレスに送信されます。詳細については、[FTP設定](#)の章を参照してください。

2. 動体検知エリアと感度を設定します。「エリアと感度」タブをクリックすると、下図のような画面が表示されます。



「感度」スクロールバーを動かして感度を設定してください。感度値が高いほど、動きが検知されやすくなります。

「追加」を選択し、「描画」をクリックします。マウスをドラッグして、動き検出領域を描画します。「消去」を選択し、マウスをドラッグして、動き検出領域を消去します。

その後、「保存」をクリックして設定を保存します。

3. 動体検知のスケジュールを設定します。動体検知のスケジュール設定手順は、スケジュール録画の設定手順と同じです（「スケジュール録画」を参照）。

4.4.2 その他のアラーム

● SDカードがいっぱいです

1. [設定]→[アラーム]→[異常]→[SDカードがいっぱいです]に進みます。

2. 「有効にする」をクリックします。

3. アラームの保持時間とアラームのトリガーオプションを設定します。設定手順は動体検知の場合と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。

● SDカードエラー

SDカードへの書き込み中にエラーが発生した場合、対応するアラームが作動します。

1. 下記に示すように、[設定]→[アラーム]→[異常]→[SDカードエラー]に進みます。

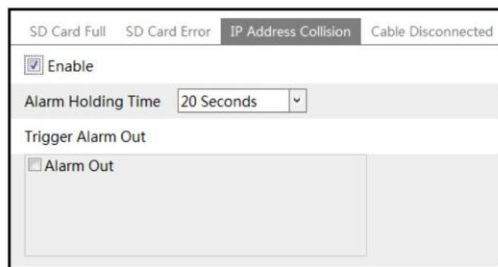
2. 「有効にする」をクリックします。

3. アラームの保持時間とアラームのトリガーオプションを設定します。アラーム出力、メール、FTPをトリガーします。設定手順は動体検知と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。

● IPアドレスの競合

この機能は、アラーム出力インターフェースを搭載したモデルでのみ利用可能です。

1. 下記に示すように、[設定]→[アラーム]→[異常]→[IPアドレスの衝突]に移動します。

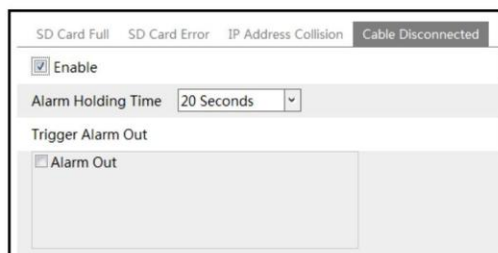


2. 「有効にする」をクリックし、アラームの保持時間を設定します。
3. アラーム出力のトリガー。カメラのIPアドレスが他のデバイスのIPアドレスと競合する場合、システムはアラーム出力をトリガーします。

● ケーブル切断

この機能は、アラーム出力インターフェースを搭載したモデルでのみ利用可能です。

1. 下記に示すように、[設定]→[アラーム]→[異常]→[ケーブル切断]に進みます。



2. 「有効にする」をクリックし、アラームの保持時間を設定します。
3. アラーム出力のトリガー。カメラが切断されると、システムはアラーム出力をトリガーします。

4.4.3 アラーム入力

この機能は一部の機種でのみ利用可能です。センサーアラーム（アラーム受信）を設定するには、以下の図のように「設定」→「アラーム」→「アラーム受信」の画面に移動してください。

- 1.「有効にする」をクリックし、アラームの種類、アラームの保持時間、センサー名を設定します。
 - 2.アラームのトリガーオプションを設定します。設定手順は動体検知と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。
 - 3.「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。
 - 4.センサーアラームのスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール記録の設定手順と同じです。（「[スケジュール記録](#)」を参照してください。）
- センサーが2つある場合は、センサーIDを選択してください。「設定を適用」をクリックすると、設定をもう一方のアラーム入力にすばやく適用できます。

4.4.4 アラーム出力

この機能は一部の機種種でのみ利用可能です。設定→アラーム→アラーム出力に進んでください。

アラーム出力ID：一部の機種種では、2つのアラーム出力インターフェースをサポートしている場合があります。アラーム出力は、アラーム出力IDを選択することで、それぞれの出力を設定できます。

アラーム出力モード：アラーム連動、手動操作、昼夜切り替え連動、タイマー機能はオプションです。

アラーム連動：このモードを選択したら、「アラーム保持時間」プルダウンリストボックスでアラーム出力名、アラーム保持時間、およびアラームタイプを選択します。

手動操作：このモードを選択したら、アラームの種類を選択し、「開く」をクリックするとすぐにアラームが鳴ります。「閉じる」をクリックするとアラームが停止します。

Alarm Out Mode: Manual Operation

Alarm Type: NC

Manual Operation: Open, Close

Save

昼夜切り替え連動：このモードを選択したら、アラームの種類を選択し、カメラの昼モードまたは夜モードに切り替わったときにアラームをオンまたはオフにするかを選択します。

Alarm Out Mode: Day/night switch linkage

Alarm Type: NC

Day: Close

Night: Close

Save

タイミング：アラームの種類を選択します。次に「追加」をクリックし、タイムライン上でマウスをドラッグしてアラームのスケジュールを設定します。「消去」をクリックし、タイムライン上でマウスをドラッグして設定したスケジュールを消去します。このスケジュールを保存すると、指定した時間にアラームが作動します。

Alarm Out Mode: Timing

Alarm Type: NC

Time Range: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

Erase Add

Manual Input

Save

4.4.5 アラームサーバー

下記に示すように、「アラーム」→「アラームサーバー」インターフェースに移動してください。

サーバーアドレス、ポート番号、ハートビート間隔、ハートビート間隔を設定します。アラームが発生すると、カメラはアラームイベントをアラームサーバーに送信します。アラームサーバーが不要な場合は、このセクションを設定する必要はありません。

Server Address	0.0.0.0
Port	8010
Heartbeat	Disable ▼
Heartbeat interval	30 Second
OK	

4.5 イベント設定

より正確な設置のために、以下にいくつかの推奨事項を示します。

- カメラは安定した場所に設置する必要があります。振動は検出の精度に影響を与える可能性があります。
- カメラを反射面（光沢のある床、鏡、ガラス、湖面など）に向けないようにしてください。
- 狭い場所や日陰が多すぎる場所は避けてください。
- 被写体の色が背景色と似ている状況は避けてください。
- 昼夜を問わず、カメラの画像が鮮明で、十分な均一な光量で撮影されていることを確認してください。露出過多や、両側が暗くなりすぎるのを避けてください。

4.5.1 放置/紛失した物品

対象物が事前に定義されたエリアから持ち出されたり、そのエリアに放置されたりすると、警報が作動します。

放置物／紛失物検出を設定するには：

下記に示すように、[設定]→[イベント]→[オブジェクトの放棄/紛失]インターフェースに移動してください。

Detection Config	Area	Schedule
☒ Enable		
☒ Enable Abandoned Object Detection ☐ Enable Missing Object Detection		
Duration of Delay	10	Second
Alarm Holding Time	20 Seconds	▼
☐ Trigger SD Card Snapshot		
☐ Trigger SD Recording		
☐ Trigger Email		
☐ Trigger FTP		
Save		

1. 放置物／紛失物の検出を有効にし、検出タイプを選択します。

放置物検知を有効にする：事前に定義されたエリアに物が放置されている場合、アラームが作動します。

紛失物検出を有効にする：事前に定義されたエリア内で紛失物がある場合、アラームが作動します。

遅延時間：これは、対象物が領域内に放置された場合、または領域から取り除かれた場合にアラームが作動するまでの遅延時間です（10～3600秒）。例えば、「放置物検知を有効にする」を選択され、遅延時間が10に設定されている場合、対象物が領域内に放置されてから10秒後にアラームが作動しますが、10秒以内に対象物が取り除かれた場合はアラームは作動しません。

2. アラームの保持時間とアラームのトリガーオプションを設定します。設定手順は動体検知の場合と同じです。

詳細は動体検知の章を参照してください。

3. 「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

4. 放置物／紛失物検知の警報範囲を設定します。「範囲」タブをクリックすると、下図のような画面が表示されます。



アラームエリア番号を設定し、希望するアラームエリア名を入力します。アラームエリアは1つしか追加できません。「エリアを描画」ボタンをクリックし、画像内でアラームエリアとして設定したいエリアの周囲をクリックします（アラームエリアは閉じたエリアである必要があります）。「描画を停止」ボタンをクリックして描画を停止します。「クリア」ボタンをクリックしてアラームエリアを削除します。設定を保存するには、「保存」ボタンをクリックしてください。

5. 放置物／紛失物検出のスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール記録と同じです（スケジュール記録を参照）。

※カメラおよび周辺エリアの構成要件

1. 検出対象の範囲は、画像全体の1/50から1/3の範囲を占める必要があります。
2. カメラにおける物体の検出時間は3秒から5秒とする。
3. 定義された領域は、頻繁かつ継続的にカバーすることはできません（人や交通の流れなど）。
4. 欠落物体検出においては、検出の感度と精度を高めるために、描画されたフレームが物体の縁に非常に近い位置にあることが必要である。
5. 放置物／紛失物検出では、物体の所有者を特定することはできません。例えば、駅構内に放置された荷物があるとして、放置物検出では荷物自体は検出できますが、誰の荷物なのかを特定することはできません。
6. シーン内の光量が大きく変化する場所では、放置物／紛失物の検出を有効にしないようにしてください。

7. シーンに複雑で動的な環境がある場合は、放棄された/欠落したオブジェクトを有効にしないようにしてください。
8. 放置物や紛失物の検出には、十分な光量と鮮明な景色が非常に重要です。

4.5.2 ビデオ例外

この機能は、外部要因によって影響を受ける監視環境の変化を検出できます。

例外検出を設定するには：

下記に示すように、「設定」→「イベント」→「ビデオ例外」のインターフェースに移動してください。

The screenshot shows the 'Detection Config' tab with the following settings:

- ☒ Scene Change Detection
- ☒ Video Blur Detection
- ☒ Video Cast Detection
- Alarm Holding Time: 20 Seconds
- Trigger Alarm Out:
 - ☐ Alarm Out
- ☐ Trigger SD Card Snapshot
- ☐ Trigger SD Recording
- ☐ Trigger Email
- ☐ Trigger FTP
- Save button

1. 必要な検出機能を有効にします。

シーン変化検知：モニター映像のシーンが変化した場合、アラームが作動します。

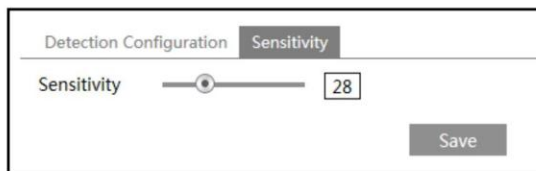
映像のぼやけ検出：映像がぼやけた場合、アラームが作動します。

ビデオキャスト検出：色ずれなどにより画像に異常が生じた場合、アラームが作動します。

2. アラーム保持時間とアラームトリガーオプションを設定します。設定手順は動体検知と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。

3. 「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

4. 例外検出の感度を設定します。「感度」タブをクリックすると、下図のような画面が表示されます。



スライダーをドラッグして感度値を設定するか、テキストボックスに直接感度値を入力してください。

設定を保存するには、「保存」ボタンをクリックしてください。

シーン変化検出の感度値：値が高いほど、システムはシーン変化の振幅に対してより敏感に反応します。

ビデオぼやけ検出の感度値：値が高いほど、システムは画像のぼやけに対してより敏感に反応します。

ビデオキャスト検出の感度値：値が高いほど、システムは画像の色ずれに対してより敏感に反応します。

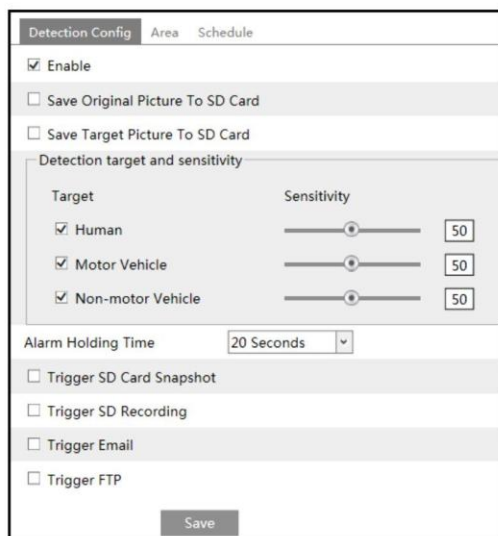
※カメラおよび周辺環境の要件

1. 例外検出時には、オートフォーカス機能を有効にしないでください。
2. シーン内の光量が大きく変化する場合は、例外検出を有効にしないようにしてください。
3. より詳細な適用事例については、お問い合わせください。

4.5.3 ラインクロス

ラインクロス：対象物が事前に定義された警報ラインを越えると、警報が作動します。

下記に示すように、[設定]→[イベント]→[線路交差]のインターフェースに移動してください。



1. ラインクロスアラームを有効にし、スナップショットの種類と検出対象を選択します。

オリジナル画像をSDカードに保存：有効にすると、対象物が警報ラインを越えたときに検出されたオリジナル画像がキャプチャされ、SDカードに保存されます。

ターゲット画像をSDカードに保存：有効にすると、ターゲットがアラームラインを越えたときに、検出されたターゲットの切り抜き画像がキャプチャされ、SDカードに保存されます。

注意：スナップショットをローカルPCに保存するには、まずローカル設定画面で「ローカルスマートスナップショットストレージ」を有効にしてください。スナップショットをSDカードに保存するには、まずSDカードを挿入してください。

検知対象：

人間：これを選択すると、事前に定義された警報ラインを誰かが越えた場合に警報が作動します。

自動車：これを選択すると、4つ以上の車輪を持つ車両（例：乗用車、バス、トラック）が事前に定義された警報ラインを越えた場合に警報が作動します。

非自動車：これを選択すると、二輪車（例：オートバイや自転車）が事前に定義された警報ラインを越えた場合に警報が作動します。

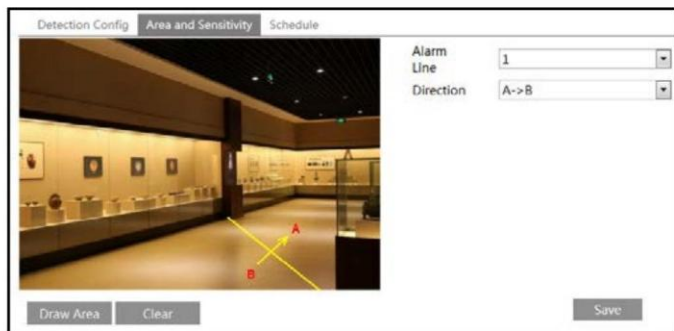
3種類の物体はすべて同時に選択できます。必要に応じて検出対象を選択してください。物体／対象が選択されていない場合、ラインクロス検出が有効になっていてもアラームは作動しません。

2. アラームの保持時間を設定します。

3. アラーム作動オプションを設定します。設定手順は動体検知と同じです。詳細は[動体検知](#)の章を参照してください。

4. 「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

5. ライン交差アラームのエリアと感度を設定します。「エリアと感度」タブをクリックすると、下図のようなインターフェースが表示されます。



警報ラインの番号と方向を設定してください。最大4ラインまで追加できます。複数のラインを同時に追加することはできません。

方向：A<->B、A->B、A<-Bは任意。

これは侵入者や車両が警報線を越える方向を示しています。

A<->B：侵入者/車両がBからA、またはAからBへ警報線を越えると、警報が作動します。

A→B：侵入者または車両がA地点からB地点へ警報ラインを越えると、警報が作動します。

A←B：侵入者／車両がBからAへ警報線を越えると警報が作動します。

「描画領域」ボタンをクリックし、マウスをドラッグして画像内に線を描画します。「描画停止」ボタンをクリックすると描画が停止します。「クリア」ボタンをクリックすると線が削除されます。「保存」ボタンをクリックすると設定が保存されます。

6. 線路横断警報のスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順、スケジュール録画の設定（スケジュール録画を参照）。

※カメラと周辺エリアの設定

1. ラインクロス検出時には、オートフォーカス機能を有効にしないでください。
2. 木々が多いシーンや、光の変化が激しいシーン（例えば、ヘッドライトの点滅が多いシーン）は避けてください。シーンの周囲の明るさは低すぎないようにしましょう。
3. カメラは2.8メートル以上の高さに設置する必要があります。
4. カメラの取り付け角度は約45°に保ってください。
5. 検出されたオブジェクトは画像全体の1%以上でなければならない、検出されたオブジェクトの最大サイズは画像全体の8分の1以下でなければならない。
6. 正確な検出のために、カメラが検出エリア内の物体を少なくとも2秒間捉えられることを確認してください。
7. 線路横断検知には、十分な光量と明瞭な景観が不可欠です。

4.5.4 領域侵入

領域侵入：対象物が 事前に定義された領域に侵入した場合、警報が 作動します。

この機能は、軍事行政区域、高危険区域、無人区域など、重要な監視場所、危険区域、および立ち入り禁止区域に適用できます。

下記に示すように、[設定]→[イベント]→[領域侵入]インターフェースに移動してください。

1. 侵入検知を有効にし、スナップショットの種類と検知対象を選択します。

オリジナル画像をSDカードに保存：有効にすると、対象物が 事前に定義された領域に侵入した際に検出されたオリジナル画像がキャプチャされ、SDカードに保存されます。

ターゲット画像をSDカードに保存：有効にすると、対象物が 事前に定義された領域に侵入した際に検出されたターゲットの切り抜き画像がSDカードに保存されます。

注意：スナップショットをローカルPCに保存するには、まずローカル設定画面で「ローカスマートスナップショットストレージ」を有効にしてください。スナップショットをSDカードに保存するには、まずSDカードを挿入してください。

検出対象：

人間：これを選択すると、定義済みの領域に誰かが侵入した場合にアラームが作動します。

自動車：これを選択すると、4つ以上の車輪を持つ車両（乗用車、バス、トラックなど）が事前に定義されたエリアに侵入した場合にアラームが作動します。

非自動車：これを選択すると、二輪車（例：オートバイや自転車）が事前に定義されたエリアに侵入した場合にアラームが作動します。

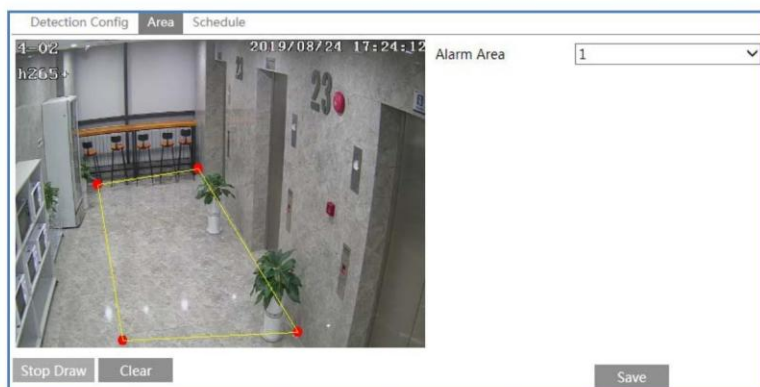
3種類の対象物はすべて同時に選択できます。必要に応じて検出対象物を選択してください。対象物／ターゲットが選択されていない場合、侵入検知が有効になっていてもアラームは作動しません。

2.アラームの保持時間を設定します。

3.アラーム作動オプションを設定します。設定手順は動体検知と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。

4.「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

5.地域侵入検知の警報エリアを設定します。「エリア」タブをクリックすると、下図のようなインターフェースが表示されます。



右側に警報エリア番号を設定してください。最大4つの警報エリアを追加できます。

「描画領域」ボタンをクリックし、左側の画像でアラーム領域として設定したい領域（閉じた領域）の周囲をクリックします。

「描画停止」ボタンをクリックすると描画が停止します。「クリア」ボタンをクリックするとアラーム領域が削除されます。「保存」ボタンをクリックすると設定が保存されます。

6.地域侵入検知のスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール録画の設定手順と同じです（「スケジュール録画」を参照）。

※カメラおよび周辺環境の構成要件

1.領域侵入検知においては、オートフォーカス機能を有効にしないでください。

2.木がたくさんあるシーンや、光の変化が激しいシーン（点滅するヘッドライトなど）は避けてください。

シーンの周囲の明るさは低すぎないようにする必要があります。

3. カメラは2.8メートル以上の高さに設置する必要があります。

4. カメラの取り付け角度は約45°に保ってください。

5. 検出されたオブジェクトは画像全体の1%以上でなければならない、検出されたオブジェクトの最大サイズは画像全体の8分の1以下でなければならない。

6. 正確な検出のために、カメラが検出エリア内の物体を少なくとも2秒間捉えられることを確認してください。

7. 十分な光量と明瞭な景観は、地域侵入検知にとって極めて重要である。

4.5.5 地域侵入

地域侵入：対象物が事前に定義された区域に入ると、警報が作動します。

設定→イベント→地域侵入インターフェースに移動します。

1. 領域進入検知を有効にし、スナップショットの種類と検出対象を選択します。

2. アラームの保持時間とアラームのトリガーオプションを設定します。

3. 地域侵入検知の警報エリアを設定します。

4. 地域への進入検知のスケジュールを設定します。

領域入口検知の設定手順は、領域侵入検知の設定手順と同じです（詳細は4.5.4 領域侵入を参照）。

4.5.6 領域からの退出

領域からの退出：対象物が事前に定義された領域から退出すると、アラームが作動します。

設定→イベント→リージョン インターフェースを終了します。

1. 領域退出検出を有効にし、スナップショットの種類と検出対象を選択します。

2. アラームの保持時間とアラームのトリガーオプションを設定します。

3. 検知範囲外のエリアの警報範囲を設定します。

4. 地域退出検知のスケジュールを設定する。

領域退出検知の設定手順は、領域侵入検知の設定手順と同じです（詳細は4.5.4 領域侵入を参照）。

4.5.7 ラインごとのターゲットカウント

この関数は、警報ラインを越える人または車両の数を計算するものです。

人や車両の形状を検知、追跡、計数することによって実現する。

1. 下記に示すように、[設定]→[イベント]→[行ごとのターゲットカウント]に移動します。

2. 行ごとのターゲットカウントを有効にし、スナップショットの種類と検出対象を選択します。

検出対象：計算対象を選択してください。人間、自動車、オートバイ／自転車から選択できます。

滞在時間しきい値：指定エリア内に滞在する対象物（人／車両）がしきい値を超えると、アラームが作動します。

カウントのリセット：現在のカウント数をリセットできます。カウントのリセットは、日次、週次、月次から選択できます。「リセット」をクリックすると、横断線を通過する人、車、自転車のカウント数を手動でリセットできます。現在のカウント数をリセットできます。

3. アラームのトリガーオプションを設定します。設定手順は動体検知の場合と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。

4. アラームラインを設定します。「エリア」タブをクリックして、下図のようなインターフェースに移動します。

警報回線の番号と方向を設定してください。追加できる警報回線は1本のみです。

方向：A→BとA←Bは任意です。矢印の方向が入口です。

統計：有効にすると、ライブビューインターフェースで統計情報を確認できます。

無効にすると、ライブビュー画面に統計情報は表示されません。統計的なOSD情報は、必要に応じてカスタマイズできます。

「描画領域」ボタンをクリックし、マウスをドラッグして画像内に線を描画します。「統計」にチェックを入れ、赤い枠を移動して画面に表示される統計情報の位置を変更します。「描画停止」ボタンをクリックすると描画が停止します。「クリア」ボタンをクリックすると線が削除されます。

設定を保存するには、「保存」ボタンをクリックしてください。

5. 行ごとの対象カウントのスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール記録の設定と同じです（「スケジュール記録」を参照）。

5. ライブビューインターフェースで統計情報を確認します。



7. 行ごとのターゲットカウントの統計情報を表示します。「統計」をクリックすると、次の画面が表示されます。

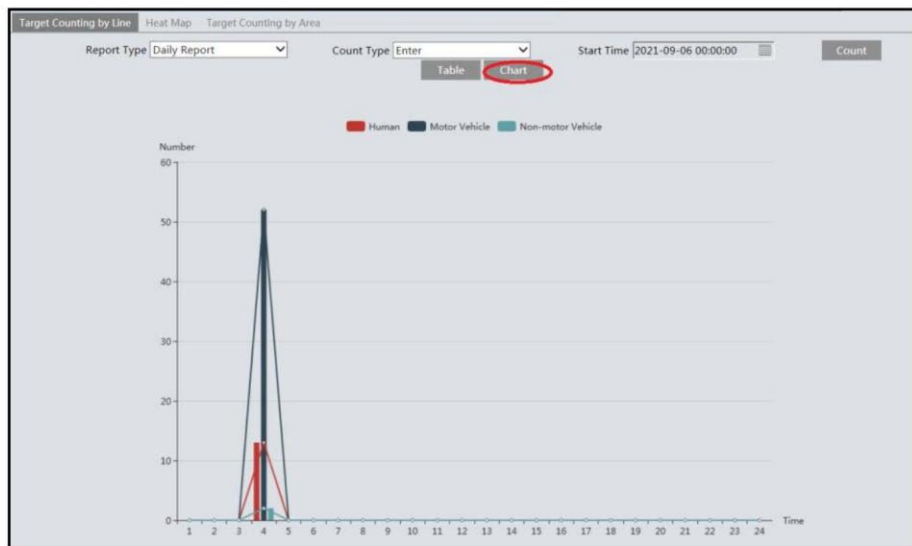
Target Counting by Line				
Report Type: Daily Report		Count Type: Enter	Start Time: 2021-09-06	Count
Table Chart				
Index	Count Time	Human	Motor Vehicle	Non-motor Vehicle
1	2021-09-06 00:00:00 ~ 2021-09-06 00:...	21	0	0
2	2021-09-06 01:00:00 ~ 2021-09-06 01:...	0	0	0

レポートの種類を選択してください。日次レポート、週次レポート、月次レポート、年次レポートから選択できます。

カウントの種類を選択してください。入力または退出は任意です。

開始時刻を選択し、「カウント」をクリックしてください。すると、カウント結果が統計結果エリアに表示されます。

結果を別の形式で表示するには、「表」または「グラフ」をクリックしてください。



4.5.8 エリア別ターゲットカウント

この機能は、人や車両の形状を検出、追跡、カウントすることにより、事前に定義された領域に侵入した人や車両の数を計算するものです。

1. 下記に示すように、[設定]→[イベント]→[エリア別ターゲットカウント]に移動します。

Detection Config Area Schedule

☒ Enable

☐ Save Original Picture To SD Card

☐ Save Target Picture To SD Card

Detection target and sensitivity

Target	Sensitivity	Staying Threshold
☒ Human	50	100
☒ Motor Vehicle	50	100
☒ Non-motor Vehicle	50	100

Counting Reset

Timing: Off

Manual: Reset

Alarm Holding Time: 20 Seconds

☐ Trigger SD Card Snapshot

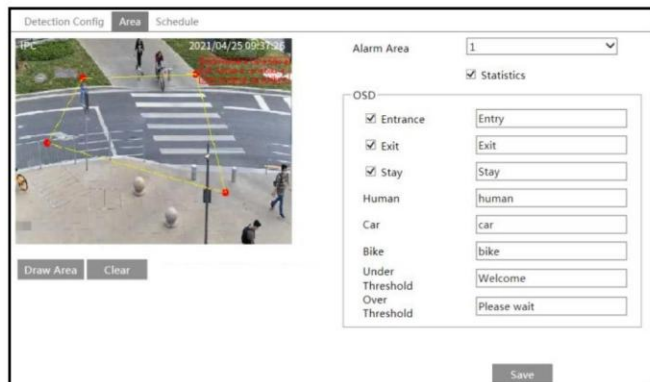
☐ Trigger SD Recording

☐ Trigger Email

☐ Trigger FTP

Save

- エリアごとのターゲットカウントを有効にし、スナップショットの種類、検出対象、カウントのリセット、アラームの連動を選択します。
- 設定手順は、ラインごとのターゲットカウントと同じです。
- 統計領域を設定します。「領域」タブをクリックすると、下図のようなインターフェースが表示されます。

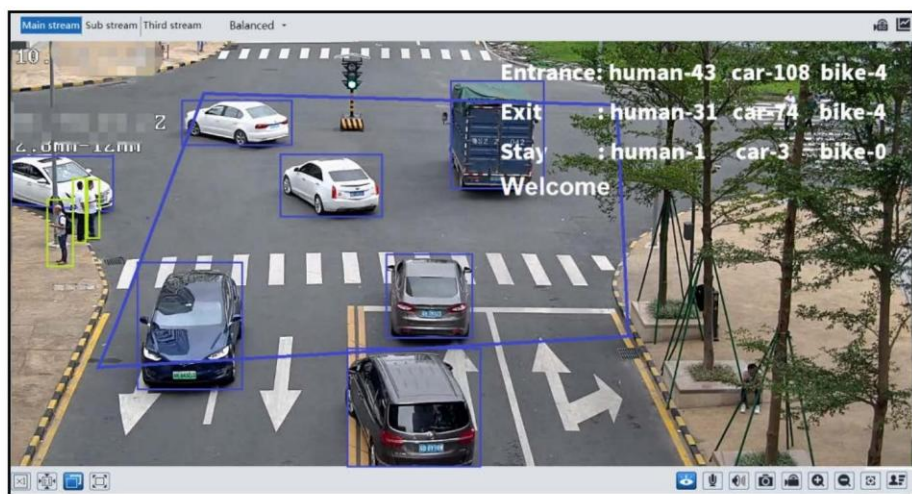


右側の警報エリア番号を選択してください。追加できる警報エリアは1つだけです。

「描画領域」ボタンをクリックし、左側の画像でアラーム領域として設定したい領域（閉じた領域）の周囲をクリックします。「描画停止」ボタンをクリックすると描画が停止します。「クリア」ボタンをクリックするとアラーム領域が削除されます。「保存」ボタンをクリックすると設定が保存されます。

4. 対象エリアごとのカウントスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール記録の設定手順と同じです（「スケジュール記録」を参照）。

5. ライブビューインターフェースで統計情報を確認します。



6. エリア別のターゲットカウントの統計情報を表示します。[統計]→[ターゲット]をクリックします。

エリアごとにカウントして、次のインターフェースに進みます。

Target Counting by Line				
Heat Map				
Target Counting by Area				
Report Type: Daily Report		Count Type: Enter	Start Time: 2021-09-06	Count
		Table Chart		
Index	Count Time	Human	Motor Vehicle	Non-motor Vehicle
1	2021-09-06 00:00:00 ~ 2021-09-06 00:...	21	0	0
2	2021-09-06 01:00:00 ~ 2021-09-06 01:...	0	0	0

必要に応じて、レポートの種類、カウントの種類、開始時刻を選択してください。次に、「カウント」をクリックして統計結果を検索します。「グラフ」をクリックすると、統計結果を直感的に表示できます。

4.5.9 群衆密度検知

この機能は、指定されたエリア（広場、スーパーマーケットなど）における人の密度を検出できます。

以下の図のように、[設定]→[イベント]→[群衆密度]に移動してください。

Detection Config
Area
Schedule

☒ Enable

Refresh Frequency: 1 Seconds

Density Alarm Threshold: 50%

Alarm Holding Time: 20 Seconds

☐ Trigger SD Card Snapshot

☐ Trigger SD Recording

☐ Trigger Email

☐ Trigger FTP

Save

1. 群衆密度検出機能を有効にする。

2. 「更新頻度」、「密度アラームしきい値」、「アラーム保持時間」を設定します。

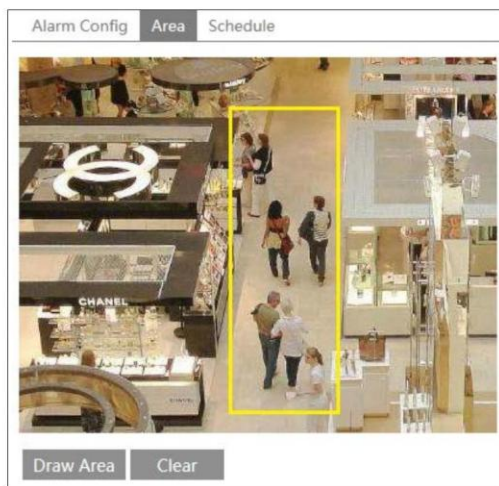
更新頻度：検出結果の更新頻度

密度警報しきい値：指定されたエリア内の群衆密度の割合が、事前に定義されたしきい値を超えると、警報が作動します。

3. アラームのトリガーオプションを設定します。設定手順は動体検知と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。

4. 群衆密度検出のための警報エリアを設定します。下図のように「エリア」タブをクリックします。

「描画領域」をクリックし、マウスをドラッグして長方形の領域を描画します。長方形の境界線をドラッグしてサイズを変更したり、長方形を移動して位置を変更したりできます。「描画停止」をクリックすると、描画が停止します。「クリア」をクリックすると、描画領域がクリアされます。



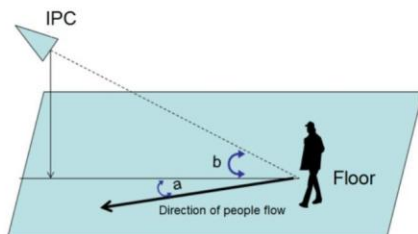
5. 群衆密度検出のスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール記録の設定手順と同じです（「スケジュール記録」を参照）。

注意：このカメラは、人間の顔を検出することによって群衆の密度を概算するものであり、検出された人物の頭部や後頭部はカウントされません。

※カメラと周辺エリアの設定

1. カメラレンズは人の流れに向ける必要があります。人の流れの方向はカメラレンズの方向からわずかにずれていても構いません（角度 (a) は45°未満である必要があります）。

カメラのレンズと床面 (b) の間の角度は30°から60°の範囲にすることが推奨されます。



2. 人物1人の画像のサイズ範囲は画像全体の1%から5%の範囲とし、高さ範囲は画像全体の1/5から1/2の範囲とする必要があります。

3. この機能は、人間の形以外の動いている物体が多数存在するシーン（例：走行中の車）には適用できません。

4. 検出エリアに多くの樹木や看板があると、検出結果に影響が出ます。

4.5.10 顔検出

顔検出機能は、監視シーンに映る顔を検出する機能です。顔が検出されるとアラームが作動します。

設定手順は以下のとおりです。

1. 下記に示すように、[設定]→[イベント]→[顔検出]に進みます。

Detection Config	Area	Advanced	Schedule
State	Working		
☒ Enable			
☐ Save Source Information To SD Card			
☐ Save Face Information To SD Card			
Trigger alarm condition	All		
Alarm Holding Time	20 Seconds		
☐ Trigger SD Card Snapshot			
☐ Trigger SD Recording			
☐ Trigger Email			
☐ Trigger FTP			
Save			

2. 顔検出機能を有効にする。

ソース情報をSDカードに保存：このオプションをオンにすると、顔検出時に画像全体がローカルPCまたはSDカードに保存されます。

顔情報をSDカードに保存：このオプションをオンにすると、顔が検出された際に撮影された顔画像がローカルPCまたはSDカードに保存されます。

注意：画像をローカルPCに保存するには、まずローカルスマートスナップショットストレージを有効にしてください。（設定→システム→ローカル設定）。

画像をSDカードに保存するには、初めにSDカードを入れてください。

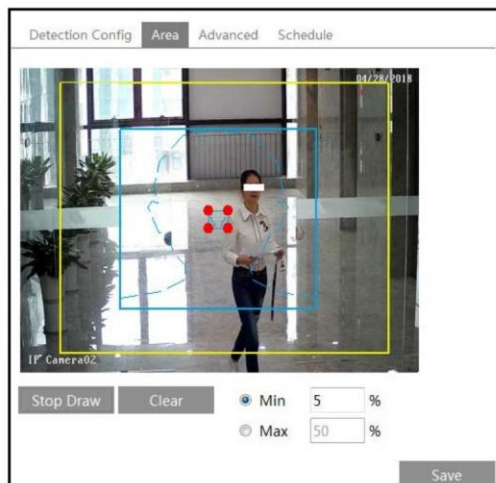
3. アラームの保持時間とアラームのトリガーオプションを設定します。アラームのトリガー設定手順は、動体検知の設定手順と同じです。詳細は動体検知の章を参照してください。

アラーム発動条件：すべてまたはマスクオフを選択できます。

全員：カメラが顔（マスクの有無に関わらず）を検出すると、アラームが作動します。

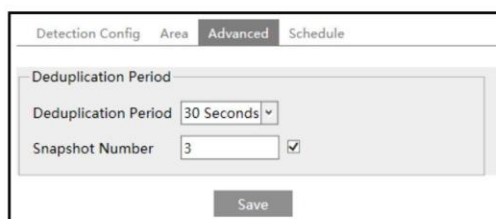
マスク非着用：検出された人物が顔にマスクを着用していない場合、アラームが作動します。

4. 警報検知エリアを設定します。



「描画領域」をクリックし、長方形の境界線をドラッグしてサイズを変更します。長方形を移動して位置を変更します。「描画停止」をクリックすると、領域の描画が停止します。「クリア」をクリックすると、領域がクリアされます。次に、最大値と最小値を定義して、検出可能な顔のサイズを設定します（単一の顔画像のデフォルトのサイズ範囲は、画像全体の3%から50%です）。

5. 詳細設定。短時間に類似した写真が複数枚撮影されるのを避けるため、必要に応じてスナップショットの間隔と枚数を選択してください。



スナップショット間隔：5秒を選択した場合、カメラは連続追跡期間中、5秒ごとに同じターゲットを撮影します。

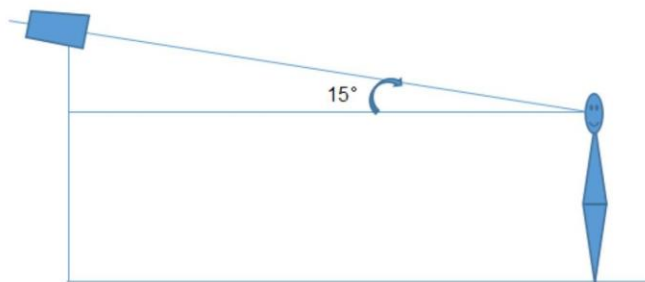
スナップショット数：スナップショット数が有効で設定されている場合（例：3）、カメラは5秒ごとに同じターゲットを撮影し、連続追跡期間中に最大3回撮影します。スナップショット数が無効になっている場合、カメラはターゲットが検出エリアから消えるまで、5秒ごとに同じターゲットを撮影します。

6. 顔検出のスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、録画スケジュールの設定（録画スケジュールを参照）。

※カメラおよび周辺環境の構成要件

1. カメラは、安定した十分な光源のある場所に設置する必要があります。

2. 設置高さは2.0mから3.5mまで調整可能で、異なるレンズの焦点距離や被写体距離に応じて調整できます。
3. カメラの俯角は15°以下でなければならない。

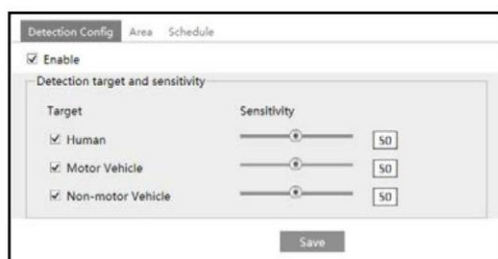


4. 被写体までの距離は、カメラに装着されているレンズの焦点距離によって決まります。
5. 顔検出の精度を確保するため、顔のキャプチャの要件は次のとおりです。左右の回転角度が約30°未満であること。ピッチング角度が20°未満であること。
6. 混雑したシーン（空港、駅、広場など）、逆光のシーン、交差点など、以下のシーンは適用されません。

4.5.11 ヒートマップ

ヒートマップはあらかじめ定義されたエリアにおける人や車両の流れの分布を、異なる色で表示するものです。

1. ヒートマップを有効にし、必要に応じてスナップショットの種類と検出対象の種類を設定します。



2. ヒートマップの表示領域を設定します。最大4つの領域を設定できます。



「描画領域」ボタンをクリックし、左側の画像でアラーム領域として設定したい領域（閉じた領域）の周囲をクリックします。「描画停止」ボタンをクリックすると描画が停止します。「クリア」ボタンをクリックするとアラーム領域が削除されます。「保存」ボタンをクリックすると設定が保存されます。

3. ヒートマップのスケジュールを設定します。スケジュールの設定手順は、スケジュール記録の設定手順と同じです（「スケジュール記録」を参照）。

3. ヒートマップデータを表示します（[統計]→[ヒートマップ]をクリック）。開始時刻と終了時刻を設定します。「カウント」をクリックすると、下図のようなヒートマップが表示されます。デフォルトのヒートマップは、人の流れのデータ表示です。「自動車」または「非自動車」をクリックすると、それぞれのデータが表示されます。



4.6 ネットワーク構成

4.6.1 TCP/IP

下図のように、[設定]→[ネットワーク]→[TCP/IPインターフェース]に移動してください。ネットワーク接続には2つの方法があります。

IPアドレスを使用する(IPv4を例にとると)ー

設定には、DHCPでIPアドレスを自動的に取得する方法と、以下のIPアドレスを使用する方法の 2つのオプションがあります。必要に応じて、いずれかを選択してください。

テスト：このボタンをクリックして、IPアドレスの有効性をテストしてください。

PPPoEを使用するー

「PPPoE設定」タブをクリックして、下図のようなインターフェースに移動します。PPPoEを有効にしてから、インターネットサービスプロバイダ（ISP）から提供されたユーザー名とパスワードを入力します。

どちらのネットワーク接続方法も使用できます。PPPoEを使用してインターネットに接続する場合、カメラは動的WAN IPアドレスを取得します。このIPアドレスは頻繁に変更されるため、IPアドレス変更通知機能をご利用ください。

「IP変更通知設定」をクリックすると、下図のようなインターフェースに移動します。

トリガメール：デバイスのIPアドレスが変更されると、設定済みのメールアドレスに新しいIPアドレスが送信されます。

FTPトリガー：デバイスのIPアドレスが変更されると、新しいIPアドレスが設定済みのFTPサーバーに送信されます。

4.6.2 ポート

下図のように、[設定]→[ネットワーク]→[ポート]のインターフェースに移動してください。HTTPポート、データポート、RTSPポートを設定できます。

HTTP Port	80
HTTPS Port	443
Data Port	9008
RTSP Port	554
Persistent connection Port	8080 ☒ Enable
WebSocket Port	7681

HTTPポート：デフォルトのHTTPポートは80です。使用されていないポートであれば、任意のポートに変更できます。

HTTPSポート：デフォルトのHTTPSポートは443です。使用されていないポートであれば、任意のポートに変更できます。

データポート：デフォルトのデータポートは9008です。必要に応じて変更してください。

RTSPポート：デフォルトのポート番号は554です。必要に応じて変更してください。

常時接続ポート：このポートは、サードパーティプラットフォームが顔写真などのスマートデータをプッシュするために、永続的な接続を確立するために使用されます。

WebSocketポート：プラグインの無料プレビュー用の通信プロトコルポート。

4.6.3 サーバー構成

この機能は主にネットワークビデオ管理システムとの接続に使用されます。

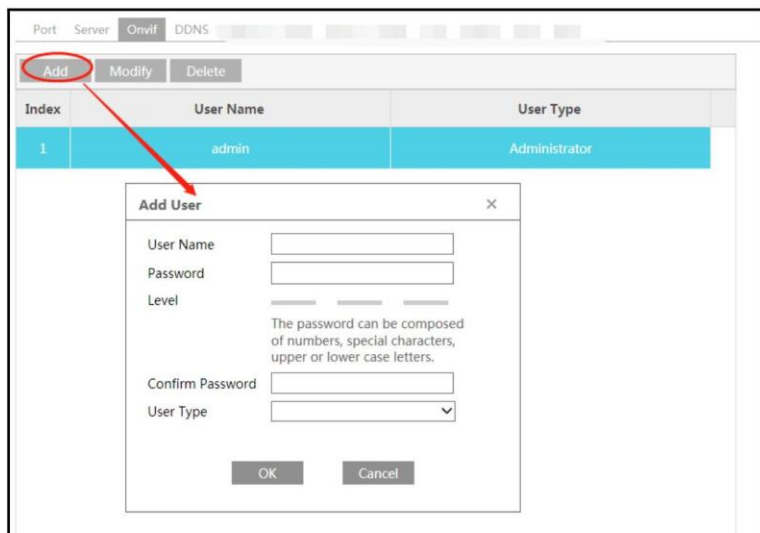
☒ Enable	
Server Port	2009
Server Address	
Device ID	1

1. 「有効にする」にチェックを入れます。
2. ECMS/NVMSで転送メディアサーバーのIPアドレスとポートを確認してください。次に、新しいデバイスを追加する際にECMS/NVMSで自動レポートを有効にします。続いて、ECMS/NVMSでデバイスの残りの情報を入力します。その後、システムが自動的にデバイスIDを割り当てますので、ECMS/NVMSで確認してください。
3. 上記のサーバーアドレス、サーバーポート、デバイスIDをそれぞれの入力欄に入力します。「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

4.6.4 Onvif

このカメラは、ONVIF/RTSPプロトコルを介してサードパーティプラットフォームを検索および接続できます。デバイスのアクティベーション画面で「ONVIFユーザーの有効化」が有効になっている場合、ONVIFユーザーを同時に有効化できます。サードパーティ製プラットフォームでONVIFプロトコルを使用してカメラを接続する際に、このONVIFユーザーを使用できます。

Onvifインターフェースで新しいユーザーを追加することもできます。



注意： ONVIF/RTSPプロトコルを使用してデバイスをサードパーティプラットフォームに追加する場合は、上記のインターフェースでonvifユーザーを使用してください。

4.6.5 DDNS

カメラがDHCP接続で設定されている場合は、インターネット用にDDNSを設定する必要があります。

1. [設定]→[ネットワーク]→[DDNS]に進みます。

☒ Enable

Server Type

User Name

Password

Domain

Save

2. ドメイン名を申請します。例として、www.dvrdyndns.com を使用します。

Internet Explorerのアドレスバーにwww.dvrdyndns.comと入力してウェブサイトアクセスしてください。

次に、「登録」ボタンをクリックしてください。

ドメイン名を作成します。

ドメイン名の申請が成功すると、ドメイン名は以下のように表示されます。

3. DDNS設定インターフェースに、ユーザー名、パスワード、申請するドメインを入力します。

4. 「保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

4.6.6 SNMP

カメラの状態、パラメータ、アラーム情報を取得したり、カメラをリモートで管理したりするには、SNMP機能を使用できます。SNMPを使用する前に、SNMP管理ツールをインストールしてください。

SNMPポート、トラップアドレスなどのSNMPパラメータを設定します。

1. [設定]→[ネットワーク]→[SNMP]に進みます。

SNMP v1/v2	
☐ Enable SNMPv1	
☐ Enable SNMPv2	
Read SNMP Community	
Write SNMP Community	
Trap Address	
Trap Port	0
Trap community	
SNMP v3	
☐ Enable SNMPv3	
Read User Name	
Security Level	auth, priv
Authentication Algorithm	☒ MD5 ☐ SHA
Authentication Password	
Private-key Algorithm	☒ DES ☐ AES
Private-key Algorithm	
Write User Name	
Security Level	auth, priv
Authentication Algorithm	☒ MD5 ☐ SHA
Authentication Password	
Private-key Algorithm	☒ DES ☐ AES
Private-key Algorithm	
Other Settings	
SNMP Port	0

2.使用する SNMP ソフトウェアのバージョンに応じて、対応するバージョン チェックボックス (SNMPv1 を有効にする、SNMPv2 を有効にする、SNMPv3 を有効にする) をオンにします。

3.「SNMPコミュニティの読み取り」、「SNMPコミュニティの書き込み」、「トラップアドレス」、「トラップポート」などの値を設定します。設定はSNMPソフトウェアの設定と同じであることを確認してください。

注意：必要なセキュリティレベルに応じて、適切なバージョンをご使用ください。バージョン番号が大きいほど、セキュリティレベルが高くなります。

4.6.7 802.1x

有効にすると、カメラのデータを保護できます。カメラが接続されると、IEEE802.1xで保護されたネットワークでは、ユーザー認証が必要です。

☒ Enable	
Protocol Type	EAP_MD5
EAPOL Version	1
User Name	test
Password	●●●●●●
Confirm Password	●●●●●●

この機能を使用するには、カメラを802.1xプロトコルをサポートするスイッチに接続する必要があります。スイッチは、ローカルネットワーク内のデバイスを識別するための認証システムとして機能する。スイッチのネットワークインターフェースに接続されたカメラがスイッチの認証に合格すれば、ローカルネットワーク経由でアクセスできるようになる。

プロトコルタイプとEAPOLバージョン：デフォルト設定を使用してください。

ユーザー名とパスワード：ユーザー名とパスワードは、認証サーバーに申請および登録したユーザー名とパスワードと一致している必要があります。

4.6.8 RTSP

設定→ネットワーク→RTSPに移動します。

☒ Enable	
Port	554
Address	rtsp://IP or domain name:port/profile1
	rtsp://IP or domain name:port/profile2
	rtsp://IP or domain name:port/profile3
Multicast address	
Main stream	239.0.0.0 50554 ☐ Automatic start
Sub stream	239.0.0.1 51554 ☐ Automatic start
Third stream	239.0.0.2 52554 ☐ Automatic start
Audio	239.0.0.3 53554 ☐ Automatic start
☐ Allow anonymous login (No username or password required)	
Save	

RTSP機能を有効にするには、「有効にする」を選択してください。

ポート：ストリーミングメディアのアクセスポート。デフォルト値は554です。

RTSPアドレス：メディアプレーヤーでストリームを再生するために使用できるRTSPアドレス（ユニキャスト）形式。

マルチキャストアドレス

メインアドレス形式：

「rtsp://IPアドレス:rtspポート/profile1?transportmode=mcast」

サブストリーム:アドレス形式：

「rtsp://IPアドレス:rtspポート/profile2?transportmode=mcast」

サブストリーム：アドレス形式は

「rtsp://IPアドレス:rtspポート/profile3?transportmode=mcast」

音声： VLCプレーヤーでメインストリームまたはサブストリームを選択すると、ビデオと音声も自動的に再生されます。

「匿名ログインを許可する」にチェックが入っている場合、動画を視聴する際にユーザー名とパスワードを入力する必要はありません。

「自動起動」が有効になっている場合、受信したマルチキャストデータはVLCプレーヤーに追加され、ビデオが再生されます。

注意：1.このカメラは、VLCプレーヤーを介したローカルビデオプレビューをサポートしています。Web クライアントとの同時ビデオプレビューを実現するには、VLCプレーヤーにRTSP アドレス(ユニキャストまたはマルチキャスト、例: rtsp://192.168.226.201:554/profile1? transportmode=mcast) を入力してください。

2.上記のIPアドレスはIPv6アドレスにはなりません。

3.同じローカルネットワーク内で同じマルチキャストアドレスを使用することは避けてください。

4.VLCプレーヤーでマルチキャストストリーム経由でビデオを再生する場合は、VLCプレーヤーのモードに注意してください。TCPモードに設定されている場合、動画は再生できません。

5.メインストリームのビデオのコーディング形式がMJPEG場合、ビデオは一部の解像度では無秩序である。

4.6.9 RTMP

RTMPプロトコルを介して、サードパーティ (YouTubeなど)にアクセスすることで、動画のライブプレビューを実現できます。

設定→ネットワーク→ RTMP に進みます。

「有効にする」にチェックを入れ、ストリームの種類を選択し、必要に応じてタイムアウト後の再接続時間とサーバーアドレスを設定します。

サーバーアドレス：第三者サーバーによって割り当てられたサーバーアドレスを入力してください。

その後、「保存」をクリックして設定を保存します。次に「更新」をクリックして接続状況を確認します。

4.6.10 UPnP

この機能を有効にすると、LAN経由でカメラに素早くアクセスできるようになります。

「設定」→「ネットワーク」→「UPnP」に進みます。UPnPを有効にしてから、UPnP名を入力します。

☒ Enable
UPnP Name
Save

4.6.11 メール

アラーム発生時やIPアドレス変更時にメールを送信する必要がある場合は、まずここでメールアドレスを設定してください。

設定→ネットワーク→メールの順に進んでください。

Sender	
Sender Address	xxx@126.com
User Name	☒ Anonymous Login
Password	
Server Address	smtp.126.com
Secure Connection	Unnecessary ▼
SMTP Port	25 Default
☐ Send Interval(S)	60 (10-3600)
Clear Test	
Recipient	
xxx@126.com	
Recipient Address	
Add Delete	
Save	

送信者アドレス：送信者のメールアドレス。

ユーザー名とパスワード：送信者のユーザー名とパスワード（「匿名ログイン」が有効になっている場合は、ユーザー名とパスワードを入力する必要はありません）。

サーバーアドレス：SMTPのIPアドレスまたはホスト名。

必要に応じて、「セキュア接続」のプルダウンリストからセキュア接続の種類を選択してください。

SMTPポート：SMTPポート。

送信間隔：メール送信の間隔です。例えば、60秒に設定した場合、60秒以内に複数の動体検知アラームが作動しても、それらは1つのアラームイベントとして扱われ、1通のメールのみが送信されます。1つの動体検知アラームイベントが作動した後、60秒後に別の動体検知アラームイベントが作動した場合は、2通のメール送信されます。異なるアラームが同時に作動した場合は、複数のメールが個別に送信されます。

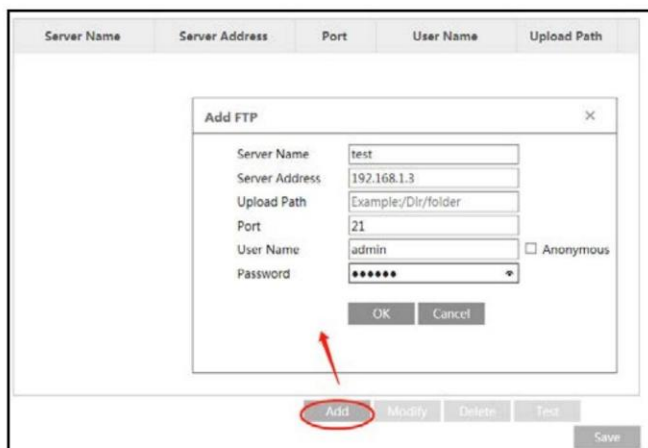
アカウントの接続をテストするには、「テスト」ボタンをクリックしてください。

受取人アドレス：受取人のメールアドレス。

4.6.12 FTP

FTPサーバーが設定されると、イベントで撮影された写真がFTPサーバーにアップロードされます。

1. [設定]→[ネットワーク]→[FTP]に進みます。



2. 「追加」をクリックしてFTP情報を追加します。その後、「保存」をクリックして設定を保存します。

サーバー名：FTPサーバーの名前。

サーバーアドレス：FTPサーバーのIPアドレスまたはドメイン名。

アップロード先パス：ファイルがアップロードされるディレクトリ。

ポート：FTPサーバーのポート番号。

ユーザー名とパスワード：FTPサーバにログインするために使用するユーザー名とパスワード

3. イベント設定インターフェース（侵入、リンクロスなど）で、以下に示すようにFTPをトリガーします。

☒ Trigger FTP

Server Address

☒ 192.168.1.3
 ☒ Attach Picture

Save

FTPストレージパスのルール：/デバイスのMACアドレス/イベントタイプ/日付/時刻/
 例として：顔検出アラームが発生する

FTPファイルパス：¥00-18-ae-a8-da-2a¥VFD¥2021-01-09¥14¥

イベント名テーブル:

ファイル名	イベントタイプ
IP	IPアドレスの変更
モーション	動体検知
センサー	センサーアラーム
トリップワイヤー	線分交差検出
周囲長	領域侵入検知
OSC	放棄された/紛失した物品
AVD	ビデオ例外
VFD	顔検出
AOIENTRY	地域入口
アオイリーブ	地域を出る
パスライン数	ラインごとのターゲットカウント
渋滞	エリア別ターゲットカウント
CDD	群衆密度検出
SDFULL	SDフル
SDERROR	SD誤差

TXTファイルの内容：

デバイス名：xxx mac: デバイスMACアドレス イベントタイプ 時間:

例：

デバイス名：IPC MACアドレス：00-18-ae-a8-da-2a モーション時刻：2021-03-16
 12:20:07

4.6.13 HTTP POST

設定→ネットワーク→HTTP POSTインターフェースに移動します。

「有効にする」にチェックを入れ、プロトコルタイプを選択し、サーバーアドレス（IPアドレス/ドメイン名）、サーバーポート、ハートビート間隔を設定します。

サーバーアドレス：サードパーティプラットフォームのIPアドレス/ドメイン名。

サーバーポート：サードパーティプラットフォームのサーバーポート。

上記のパラメータを設定したら、「保存」をクリックして設定を保存します。すると、カメラは自動的にサードパーティプラットフォームに接続します。オンライン状態は上記のインターフェースで確認できます。カメラが正常に接続されると、スマートアラームが作動した際に、アラーム情報（HTTP形式）がサードパーティプラットフォームに送信されます。アラーム情報には、ターゲットの追跡座標、ターゲットの特徴、撮影されたオリジナル/ターゲット画像（撮影された顔写真、自動車の写真など）が含まれます。

4.6.14 HTTPS

HTTPSはウェブサイトの認証を提供し、ユーザーのプライバシーを保護します。

下記に示すように、「設定」→「ネットワーク」→「HTTPS」を選択してください。

上記のように、証明書はデフォルトでインストールされています。この機能を有効にして保存してください。

その後、ウェブブラウザで [https://IP: https ポート番号](https://IP:httpsポート番号) を入力することでカメラにアクセスできます（例：<https://192.168.226.201:443>）。

デフォルトの証明書を使いたくない場合は、プライベート証明書を作成できます。「削除」をクリックしてください。

デフォルトの証明書をキャンセルするには、以下の操作を行います。

すると、次の画面が表示されます。

*署名済みの証明書がある場合は、「参照」をクリックして選択し、「インストール」をクリックしてインストールします。

*「プライベート証明書を作成する」をクリックして、次の作成画面に進みます。

「作成」ボタンをクリックして、プライベート証明書を作成します。国（2文字のみ使用可能）、ドメイン（カメラのIPアドレス/ドメイン）、有効期限、パスワード、都道府県/州、地域などを入力します。次に「OK」をクリックして設定を保存します。

*「証明書要求の作成」をクリックすると、次の画面が表示されます。

「作成」をクリックして証明書要求を作成します。次に、証明書要求をダウンロードし、信頼できる認証局に送信して署名を依頼します。署名済みの証明書を受け取ったら、証明書をデバイスにインポートします。

4.6.15 QoS

QoS（Quality of Service）機能は、さまざまなネットワークアプリケーションに対して異なるサービス品質を提供するために使用されます。帯域幅が不足している場合、ルーターまたはスイッチはこの機能を使用してデータストリームを優先順位に従ってソートし、転送することで、ネットワークの遅延と輻輳を解消します。

「設定」→「ネットワーク」→「QoS」に進みます。

Video/Audio DSCP	13
Alarm DSCP	35
Manager DSCP	53

ビデオ/オーディオDSCP：範囲は0～63です。

アラームDSCP：範囲は0～63です。

マネージャーDSCP：範囲は0～63です。

一般的に言って、数字が大きいほど優先順位が高くなります。

4.7 セキュリティ設定

4.7.1 ユーザー設定

下記に示すように、「設定」→「セキュリティ」→「ユーザーインターフェース」に移動してください。

Add Modify Delete			
Index	User Name	User Type	Binding MAC
1	admin	Administrator	

ユーザーを追加する：

1. 「追加」ボタンをクリックすると、次のテキストボックスが表示されます。

2. 「ユーザー名」テキストボックスにユーザー名を入力します。

3. 「パスワード」と「パスワードの確認」テキストボックスにパスワードを入力してください。

パスワードのセキュリティレベルの要件に従ってパスワードを設定してください（セキュリティレベルを設定するには5.「OK」ボタンをクリックすると、新、[設定]→[セキュリティ]→[セキュリティ管理]→[パスワードセキュリティ]インターフェースに移動してください）。

4. ユーザーの種類を選択し、必要なユーザー権限を選択します。

新しく追加されたユーザーはユーザーリストに表示されます。

ユーザーの変更：

- 1.ユーザー設定リストボックスで、必要に応じてパスワードを変更するユーザーを選択します。
- 2.「変更」ボタンをクリックすると、「ユーザーの編集」ダイアログボックスが表示されます。

3.「以前のパスワード」テキストボックスに、ユーザーの以前のパスワードを入力します。

4.「新しいパスワード」と「パスワードの確認」のテキストボックスに新しいパスワードを入力します。

5.上級ユーザーまたは一般ユーザーのユーザー権限を選択します。

6.「OK」ボタンをクリックして設定を保存します。

注意：パスワードレベルを「強力」に設定した場合、以前の5つのパスワードと同じパスワードを設定することはできません。

ユーザーを削除する：

1.ユーザー設定リストボックスで、削除するユーザーを選択します。

2.「削除」ボタンをクリックしてユーザーを削除します。

注意：デフォルトの管理者アカウントは削除できません。

セキュリティ質問設定：パスワードを忘れた場合にパスワードをリセットできるよう、管理者向けの質問と回答を設定します。

4.7.2 オンラインユーザー

ライブビデオを視聴しているユーザーを確認するには、「設定」→「セキュリティ」→「オンラインユーザー」に移動してください。

Index	Client Address	Port	User Name	User Type	
1	192.168.17.232	55760	admin	Administrator	Kick Out

管理者ユーザーは、他のすべてのユーザー（他の管理者を含む）を強制的にログアウトさせることができます。

4.7.3 ブロックリストと許可リスト

以下の図のように、「設定」→「セキュリティ」→「ブロックリストと許可リスト」に移動してください。

セットアップ手順は以下のとおりです。

「アドレスフィルタリングを有効にする」チェックボックスをオンにしてください。

「次のアドレスをブロック/許可する」を選択し、IPv4/IPv6を選択してから、アドレスボックスにIPアドレスを入力し、「追加」ボタンをクリックします。

4.7.4 セキュリティ管理

下記に示すように、「設定」→「セキュリティ」→「セキュリティ管理」に移動してください。

悪意のあるパスワード解除を防ぐため、「不正ログインがあった場合はロックする」

この機能はここで有効にできます。この機能を有効にすると、5回ログインを試行しても失敗すると、ログイン画面がロックされます。カメラには30分後、またはカメラが再起動した後に再度ログインできます。

トリガーメール：有効にすると、ログイン/ログアウト時、または不正ログインによるロックが発生した際にメールが送信されます。

● パスワードのセキュリティ

必要に応じてパスワードのレベルと有効期限を設定してく

ださい。パスワードレベル：弱い、中程度、強い。

難易度：低数字、特殊文字、大文字・小文字の英字を使用できます。パスワード設定時に、これらの文字を1つだけ、または任意の組み合わせで使用できます。

中級レベル：8～16文字で、数字、特殊文字、大文字、小文字のうち少なくとも2種類を含む。

難易度：8～16文字。数字、特殊文字、大文字、小文字をすべて含める必要tiあります。

アカウントのセキュリティのため、強力なパスワードを設定し、定期的に変更することをお勧めします。

必要に応じてパスワードのレベルと有効期限を設定してください

HTTP認証：基本認証またはトークン認証を選択できます。

4.8 メンテナンス構成

4.8.1. バックアップと復元

設定→メンテナンス→バックアップと復元に進みます。

The screenshot shows a web interface for camera settings. It is divided into three main sections: 'Import Setting', 'Export Settings', and 'Default Settings'. The 'Import Setting' section has a 'Path' input field with a 'Browse' button and an 'Import Setting' button. The 'Export Settings' section has an 'Export Settings' button. The 'Default Settings' section has a 'Keep' label and three checkboxes: 'Network Config', 'Security Configuration', and 'Image Configuration'. Below these is a 'Load Default' button.

● インポートおよびエクスポート設定

カメラの設定は、あるカメラから別のカメラにエクスポートできます。

- 1.「参照」をクリックして、PC上のインポートまたはエクスポート情報の保存先を選択します。
- 2.「設定のインポート」または「設定のエクスポート」ボタンをクリックします。

注意： [設定のインポート]ボタンをクリックした後、ログインパスワードを入力する必要があります。

● デフォルト設定

「デフォルト設定を読み込む」ボタンをクリックし、パスワードを確認すると、保持したい設定を除き、すべてのシステム設定が工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。

4.8.2 再起動

設定→メンテナンス→再起動に進みます。

「再起動」ボタンをクリックし、パスワードを入力してデバイスを再起動してください。

タイマー再起動設定：

必要に応じて、カメラを一定時間間隔で再起動するように設定できます。「時間設定」を有効にし、日付と時刻を設定して、「保存」ボタンをクリックし、パスワードを入力して設定を保存します。

4.8.3 アップグレード

「設定」→「メンテナンス」→「アップグレード」に進んでください。この画面でカメラのファームウェアをアップデートできます。

Local upgrade

Path

1. 「参照」ボタンをクリックして、アップグレードファイルの保存先を選択します。
2. 「アップグレード」ボタンをクリックして、ファームウェアのアップグレードを開始します。
3. 正しいパスワードを入力すると、デバイスが自動的に再起動します。

注意!アップグレード中は、ブラウザを閉じたり、カメラをネットワークから切断したりしないでください。

4.8.4 操作ログ

ログを照会およびエクスポートするには：

1. [設定]→[メンテナンス]→[操作ログ]に移動します。

Main Type	Operation	Sub Type	Log in			
Start Time	2021-09-06 00:00:00	End Time	2021-09-06 23:59:59	Search	Export	
Index	Time	Main Type	Sub Type	User Name	Login IP	Hostname
1	2021-09-06 03:1...	Operation	Log in	admin	10.20.52.7	
2	2021-09-06 03:1...	Operation	Log in	admin	10.20.52.7	

2. メインタイプ、サブタイプ、開始時刻、終了時刻を選択します。
3. 「検索」をクリックして操作ログを表示します。
4. 「エクスポート」をクリックして、操作ログをエクスポートします。

5.1 画像検索

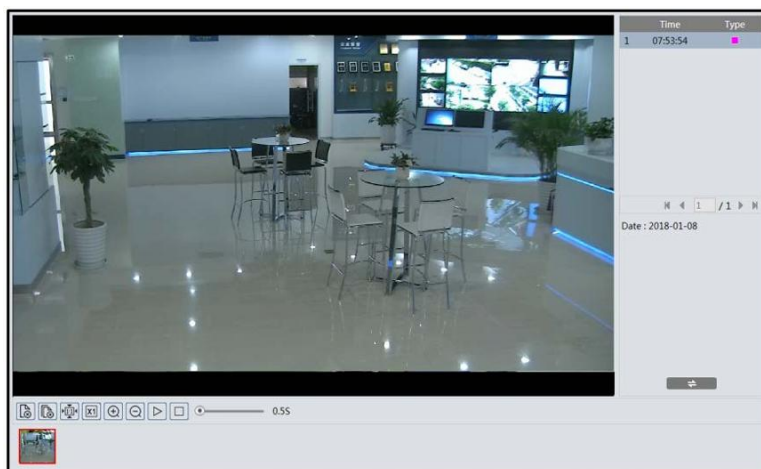
「検索」をクリックすると、下図のような画面が表示されます。SDカードに保存されている画像は、ここに表示されます。

注意：プラグインなしのブラウザを使用している場合、ローカル画像を検索することはできません。



● ローカル画像検索

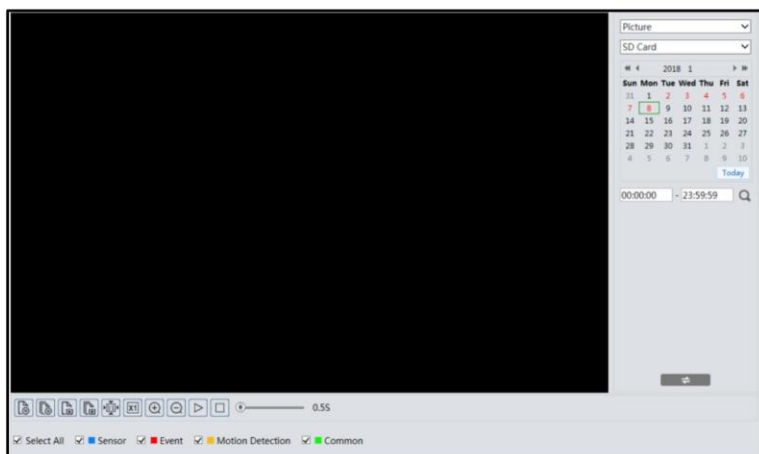
1. 「画像」→「ローカル」を選択します。
2. 時間の設定：日付を選択し、開始時刻と終了時刻を選択します。
3. 🔍 をクリックして画像を検索する。
4. リスト内のファイル名をダブルクリックすると、上記のように撮影された写真が表示されます。



 をクリックして前の画面に戻る。

● SDカードイメージ検索

1. 「画像」→「SDカード」を選択します。



2. 時間の設定：日付を選択し、開始時刻と終了時刻を選択します。

3. 画面下部のアラームイベントを選択します。

4.  をクリックして画像を検索します。

5. リスト内のファイル名をダブルクリックして、撮影した写真を表示します。

 をクリックすると前の画面に戻ります。

各ボタンの説明は以下のとおりです。

アイコン	説明	アイコン	説明
	閉じる：画像を選択し、このボタンをクリックすると画像が閉じます。		すべて閉じる：このボタンをクリックすると、すべての画像が閉じます。
	保存：このボタンをクリックして、PC上の画像保存先を選択してください。		すべて保存：このボタンをクリックして、PC上のすべての画像を保存するパスを選択してください。
	サイズ調整：画像をクリックして画面に合うように調整してください。		実寸大：こちらをクリック画像の実際のサイズを表示するボタン。
	ズームイン：このボタンをクリックすると、デジタルズームで拡大表示されます。		ズームアウト：このボタンをクリックすると、デジタル的にズームアウトします。
	スライドショー再生：このボタンをクリックしてスライドショーを開始してください		停止：このボタンをクリックするとスライドショーが停止します。

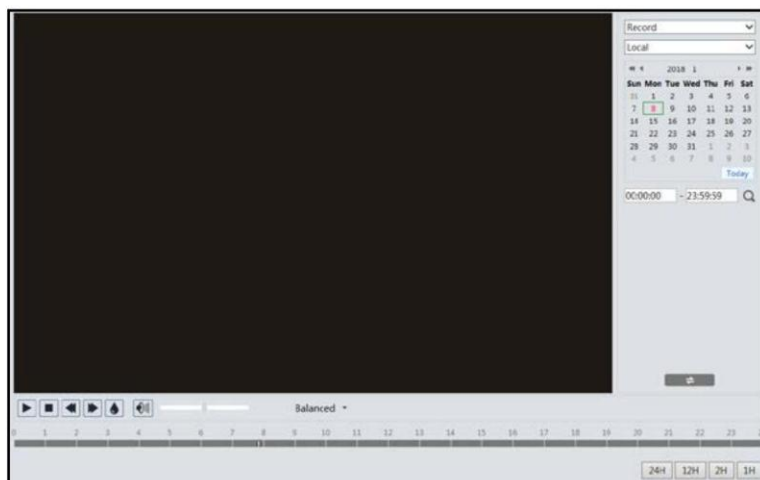
アイコン	説明	アイコン	説明
	再生速度：スライドショーの再生速度。		

5.2 動画検索

5.2.1 ローカルビデオ検索

「検索」をクリックすると、下図のようなインターフェースが表示されます。このインターフェースでは、PCにローカルで録画された動画を再生できます。

注意：プラグインなしのブラウザを使用している場合、ローカル動画を検索することはできません。



1. 「記録」→「ローカル」を選択します。
2. 検索時間の設定：日付を選択し、開始時刻と終了時刻を選択します。
3.  をクリックして画像を検索する。
4. リスト内のファイル名をダブルクリックして再生を開始します。

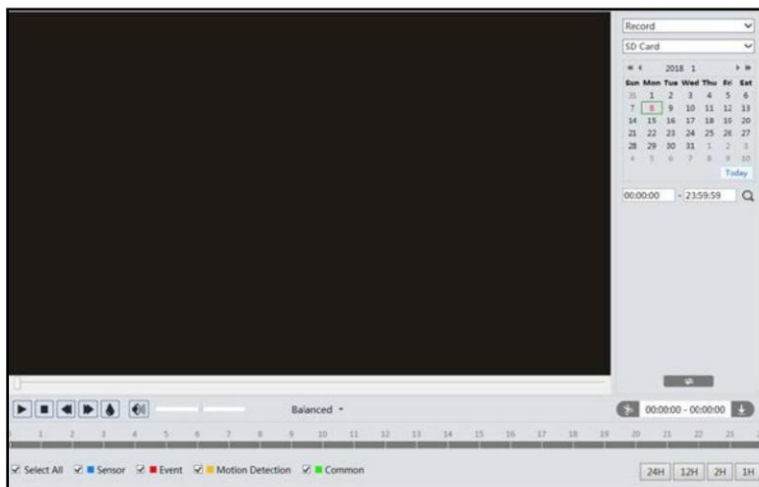


アイコン	説明	アイコン	説明
	再生ボタン。ビデオを一時停止した後、このボタンをクリックしてプレイを続けてください。		一時停止ボタン
	停止ボタン		早戻し
	早送り		透かし表示
	音声の有効化／無効化。音声を有効にした後、スライダーをドラッグして音量を調整します。		

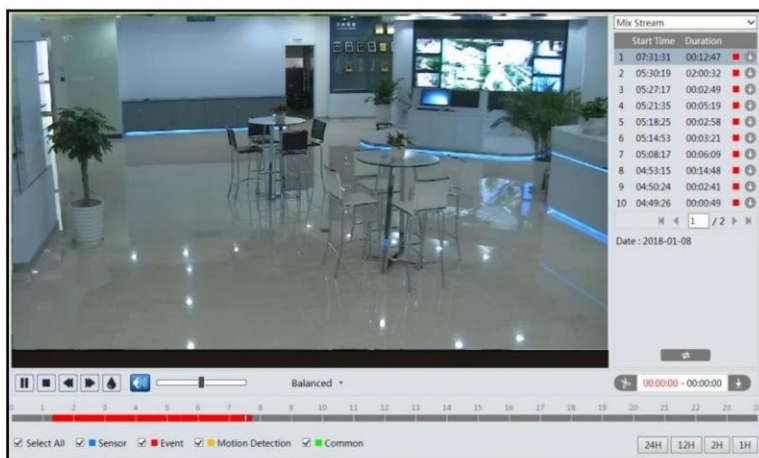
5.2.2 SDカードのビデオ検索

「検索」をクリックすると、下図のような画面が表示されます。この画面では、SDカードに録画された動画を再生できます。

1. 「記録」→「SDカード」を選択します。
2. 検索時間の設定：日付を選択し、開始時刻と終了時刻を選択します。
3.  をクリックして画像を検索する。



4. インターフェース下部にあるアラームイベントを選択します。
5. 必要に応じて、ミックスストリーム（ビデオとオーディオのストリーム）またはビデオストリームを選択します。
6. リスト内のファイル名をダブルクリックして再生を開始します。



注意： ◀ と ▶ はプラグイン無しのブラウザでは、上記のインターフェースに表示できません。
 プラグイン無しの再生では、再生モードの切り替え（バランスモード／リアルタイムモード／フルエントモード）およびダウンロード機能はサポートされていません。

時刻表は、対応するボタンをクリックすることで、24時間表示、12時間表示、2時間表示、1時間表示のいずれかの形式で表示できます。

動画クリップとダウンロード

1. 上記の手順に従ってビデオファイルを検索します。

2. 時間割をクリックして開始時間を選択してください。
3.  をクリックして開始時間を設定すると、このボタンが 青色 () に変わります
4. 時刻表をクリックして終了時間を選択します。次に  をクリックします
5.  をクリックして動画ファイルをPCにダウンロードする。

Index	Process	Record	Start Time	End Time	Path	Operate
1	100%	Cut	2018-01-16 01:1...	2018-01-16 01:1...	Favorites	Open

Set up

D:\Favorites

Clear List

Close

「設定」をクリックして、ビデオファイルの保存先ディレクトリを設定してください。

動画を再生するには、「開く」をクリックしてください。

ダウンロードリストをクリアするには、「リストをクリア」をクリックしてください。

ダウンロードウィンドウを閉じるには、「閉じる」をクリックしてください。

付録1 トラブルシューティング

パスワードを見つける方法

A: 管理者のパスワードは、「セキュリティ質問の編集」機能からリセットできます。

ログイン画面の「パスワードを忘れた場合」をクリックし、ポップアップウィンドウに表示される質問に該当する回答を入力してください。すべての質問に正しく回答すると、管理者のパスワードをリセットできます。質問の回答を忘れた場合は、この方法は無効となりますので、販売店にお問い合わせください。

B: 他のユーザーのパスワードは管理者がリセットできます。

IEブラウザ経由でデバイスを接続できません。

A: ネットワーク接続が不安定です。接続状況を確認し、正常に接続されていることを確認してください。

B: IPアドレスが利用できません。IPアドレスをリセットしてください。

C: Webポート番号が変更されました。正しいポート番号については、管理者にお問合せください。

D: 上記の理由を除外します。IP-Toolを使用してデフォルト設定に戻します。

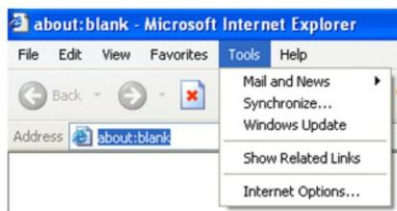
IPツールではデバイスを検索できません。

お使いのコンピューターにインストールされているウイルス対策ソフトが原因かもしれません。ウイルス対策ソフトを終了してから、もう一度デバイスの検索をお試しください。

Internet ExplorerはActiveXコントロールをダウンロードできません。

A. IEブラウザはActiveXをブロックするように設定されている可能性があります。以下の手順に従ってください。

① IEブラウザを開き、「ツール」→「インターネットオプション」をクリックします。



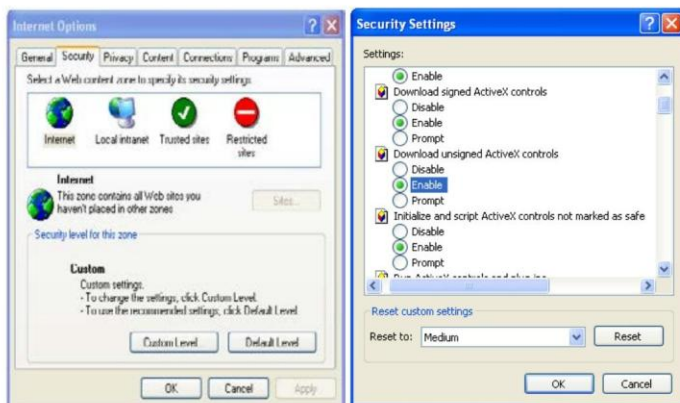
② セキュリティを選択-----カスタムレベル...

③ 「ActiveX コントロールとプラグイン」の下にあるすべてのオプションを有効にします。

④ 「OK」をクリックしてセットアップを完了します。

B. 他のプラグインやウイルス対策ソフトがActiveXをブロックしている可能性があります。

それらをアンインストールするか、閉じてください。



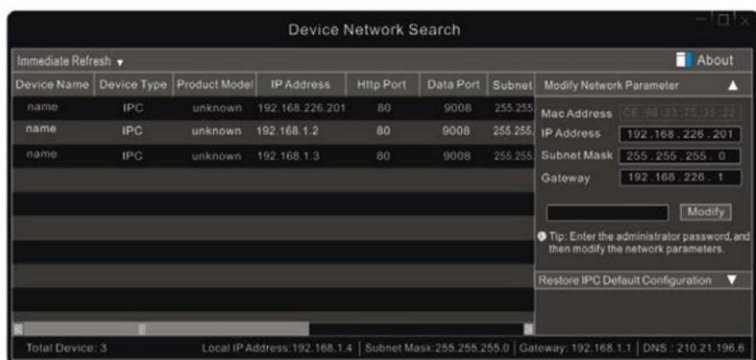
音が聞こえない。

A: 音声入力機器が接続されていません。接続してからもう一度お試しください。

B: 該当チャンネルで音声機能が有効になっていません。この機能を有効にしてください。

IP-Toolを使ってIPアドレスを変更する方法は？

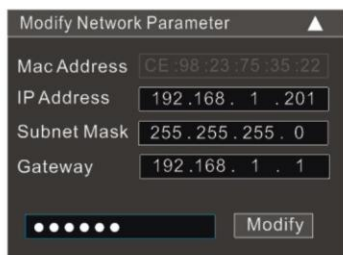
A: IP-Toolをインストールしたら、以下に示すように実行してください。



このカメラのデフォルトのIPアドレスは192.168.226.201です。上の表に記載されているカメラの情報をクリックすると、

右側にネットワーク情報が表示されます。

カメラのIPアドレスとゲートウェイを変更し、ネットワークアドレスがコンピュータと同じローカルネットワークセグメント内にあることを確認してください。実際の状況に応じて、デバイスのIPアドレスを変更してください。



Modify Network Parameter ▲

Mac Address CE:98:23:75:35:22

IP Address 192.168.1.201

Subnet Mask 255.255.255.0

Gateway 192.168.1.1

..... Modify

例えば、お使いのコンピューターのIPアドレスが192.168.1.4の場合、カメラのIPアドレスを192.168.1.Xに変更する必要があります。変更後、事前にデバイス有効化画面で設定した「admin」のパスワードを入力し、「変更」ボタンをクリックしてネットワークパラメータを変更してください。